

平成18年度

# 国分寺市埋蔵文化財調査年報

2008年3月

国分寺市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において、平成 18 年度に実施した個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査および民間開発に伴う確認調査の概要をまとめたものである。なお、付編として昭和 50・60 年代に実施した個人住宅建設及び遺構確認に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、遺構・遺物の検出がなかった小規模調査を掲載した。昭和 50 年代は、平成 16・17 年度年報の遺漏分である。
2. 発掘調査は文化庁と東京都の補助を受け、国分寺市教育委員会が調査主体者となり国分寺市遺跡調査会に委託して調査を実施した。
3. 本書の編集は立川明子の指示のもと国分寺市遺跡調査会が行い、執筆は各調査担当者の所見をもとに立川が担当した。
4. 縄文土器の型式は、あきる野市前原遺跡調査会黒尾和久・府中市教育委員会中山真治の各氏にご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

## 凡 例

1. 本書に記載した各遺跡における遺構表示は下記の番号を冠して遺構毎に連続番号を与え登録している。但し小穴については各調査ごとに連続番号を付している。縄文時代の住居、土坑は末尾に J を付し、小穴は PJ を冠して、歴史時代の遺構と区別している。

SB (掘立柱建物、柱穴)      SI (竪穴住居)      SD (溝)      SK (土坑)  
SF (道路)      SS (集石土坑)      P (歴史時代小穴)      PJ (縄文時代小穴)

2. 本書に記載した遺物は、各調査ごとに下記の記号を冠し種別ごとに連続番号を与えて登録したものに通し番号を与え表示した。

歴史時代	PH (土師器)	PK (須恵器)	KD (女瓦)
縄文時代 土器類	JB (早期前半)	JE (中期前半)	JF (中期後半)
石器類	AA (尖頭器)	AB (石鏃)	AG (打製石斧)    AH (磨製石斧)
	AL (磨石)	AM (挟入磨石)	AT (剥片)      AZ (不明石器)
旧石器時代	FA (ナイフ形石器)		

3. 縮尺は下記の通りである。

遺構 全体図 1/100    1/150    1/200    1/250    住居跡 1/60    柱穴・溝・道路・小穴 1/40  
集石土坑 1/20

遺物 歴史時代 [図面] 土器類 1/3 瓦類 1/4      [図版] 土器類 1/2 瓦類 1/4  
縄文時代 [図面] 土器 1/3 石器類 1/3 3/4      [図版] 土器・石器類 1/2  
旧石器時代 [図面] ナイフ形石器 1/2      [図版] ナイフ形石器 1/1

4. 調査の基準線は、武蔵国分寺跡においては僧寺金堂・講堂間に原点を置く局地座標系(旧日本測地系座標に変換可)による。恋ヶ窪遺跡他については旧日本測地座標第 9 系による。
5. 調査の分層は武蔵国分寺跡周辺の調査における国分寺市遺跡調査会の層位区分に基づいて行っており、本書における呼称も同様である。(参考:1985『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ』)
6. 遺物観察表は種別ごとにまとめ、図面番号順に列記している。表中の計測値のうち、括弧の無いものは完数値、( ) のあるものは残存数値、(( )) は復元数値、- は計測不可を示す。

## 目 次

例 言	・・・ 1
凡 例	・・・ 1
目 次	・・・ 2
平成18年度遺跡調査会組織	・・・ 3
第1章 平成18年度埋蔵文化財行政の概要	・・・ 4
第2章 平成18年度埋蔵文化財調査の概要	・・・ 9
平成18年度 調査地区一覧	・・・ 10
平成18年度 調査地区位置図	・・・ 11
平成18年度 各調査の概要	
① 武蔵国分寺跡第606次調査 確認調査	・・・ 12
② 武蔵国分寺跡第607次調査 個人宅造地	・・・ 14
③ 武蔵国分寺跡第608次調査 確認調査	・・・ 18
④ 武蔵国分寺跡第609次調査 個人宅造地	・・・ 20
⑤ 武蔵国分寺跡第610次調査 個人宅造地	・・・ 24
⑥ 武蔵国分寺跡第611次調査 確認調査	・・・ 27
⑦ 武蔵国分寺跡第612次調査 個人宅造地	・・・ 29
⑧ 武蔵国分寺跡第614次調査 個人宅造地	・・・ 31
⑨ 武蔵国分寺跡第615次調査 個人宅造地	・・・ 34
⑩ 武蔵国分寺跡第618次調査 個人宅造地	・・・ 36
⑪ 武蔵国分寺跡第619次調査 確認調査	・・・ 38
⑫ 恋ヶ窪遺跡第81次調査 確認調査	・・・ 40
⑬ 多摩園坂遺跡第11次調査 確認調査	・・・ 42
⑭ 殿ヶ谷戸遺跡第5次調査 個人宅造地	・・・ 44
⑮ 殿ヶ谷戸遺跡第6・8次調査 確認調査・個人宅造地	・・・ 47
⑯ 恋ヶ窪東遺跡第17次調査 個人宅造地	・・・ 53
付編 昭和50・60年代の小規模調査概要	
昭和50・60年代 調査地区一覧	・・・ 55
昭和60年代 調査地区位置図	・・・ 56
① 武蔵国分寺跡第231次調査 個人宅造地	・・・ 57
② 武蔵国分寺跡第232次調査 個人宅造地	・・・ 58
③ 武蔵国分寺跡第237次調査 個人宅造地	・・・ 59
④ 武蔵国分寺跡第238次調査 個人宅造地	・・・ 60
⑤ 武蔵国分寺跡第239次調査 個人宅造地	・・・ 61
⑥ 武蔵国分寺跡第241次調査 個人宅造地	・・・ 62
⑦ 武蔵国分寺跡第246次調査 個人宅造地	・・・ 63
⑧ 武蔵国分寺跡第254次調査 個人宅造地	・・・ 64
⑨ 武蔵国分寺跡第260次調査 個人宅造地	・・・ 65
⑩ 武蔵国分寺跡第262次調査 個人宅造地	・・・ 66
⑪ 武蔵国分寺跡第269次調査 個人宅造地	・・・ 67
⑫ 武蔵国分寺跡第270次調査 個人宅造地	・・・ 68
⑬ 武蔵国分寺跡第287次調査 個人宅造地	・・・ 69
⑭ 武蔵国分寺跡第310次調査 個人宅造地	・・・ 70
昭和60年代 調査地区位置図	・・・ 71
⑰ 恋ヶ窪遺跡第9次調査 確認調査	・・・ 72
⑱ №43遺跡第1次調査 確認調査	・・・ 73
⑳ №44遺跡第1次調査 確認調査	・・・ 74
遺物観察表	・・・ 75
遺物図面 (1) ～ (3)	・・・ 77
遺物図版 (1) ～ (3)	・・・ 80

## 平成18年度遺跡調査会組織

### — 役員および監事 —

会 長	坂 皓 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	関 口 雄基臣	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理 事	星 野 信 夫	国分寺市長
理 事	内 田 修	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松 井 敏 夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	星 野 亮 雅	元国分寺市社会教育委員
理 事	古 関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	北 原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	坂 本 克 治	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	小 菅 政 治	東京都教育庁生涯学習部計画課長
専務理事	竹 内 悟	国分寺市教育委員会教育次長兼教育部長
監 事	榎 戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡 崎 完 樹	東京都教育庁生涯学習部計画課埋蔵文化財係長

### — 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 —

委 員 長	坂 皓 秀 一	(考古学) 立正大学名誉教授
委 員	藤 井 恵 介	(建築史) 東京大学大学院工学系研究科准教授
委 員	佐 藤 信	(古代史) 東京大学大学院人文社会学系研究科教授

### — 事務局 —

事務局 長	福 田 信 夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局 員	豊 泉 文 夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局 員	太 田 和 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財普及担当係長
事務局 員	松 田 亜紀子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局 員	中 倉 まり子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事務局 員	稲 井 亮	国分寺市遺跡調査会

### — 調査団 —

団 長	坂 皓 秀 一	立正大学名誉教授
主任調査員	上 敷 領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	小 野 本 敦	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	中 道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	立 川 明 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員

## 第1章 平成18年度埋蔵文化財行政の概要

### 1. 土木工事に関する埋蔵文化財調査

平成18年度の周知の遺跡内における土木工事の届け出は195件あり、慎重工事と教育委員会が具申した工事を除き、年度内に実施したのは立会調査94件、確認調査7件、本調査14件である。

立会調査	公共事業	13	94	115
	民間事業	81		
確認調査		7		
試掘調査		0		
本調査	民間開発	4	14	
	個人宅造	10		

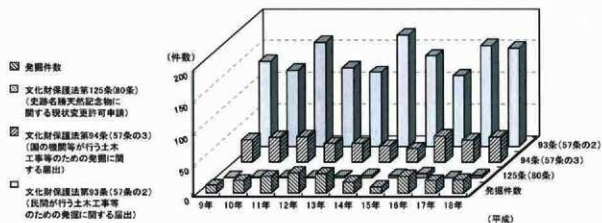
第1表 土木工事に関する調査内訳

調査原因を事業者別で見ると、公共工事業が15件、民間事業が97件である。事業計画内容の内訳は、公共事業では下水道工事10件、道路整備工事3件、用水路修繕工事1件、史跡整備工事1件、民間事業では個人住宅建設23件、共同・集合住宅建設4件、分譲住宅建設6件、宅地造成2件、店舗建設6件、寺社社殿建替1件、ガス工事21件、電気・電話工事27件、水道工事6件、である。(第2表)

### 2. 発掘届の推移

文化財保護法第125条(80条)(史跡名勝天然記念物に関する現状変更許可申請)、第94条(53条の3)(国の機関等が行う土木工事等のための発掘に関する届け出)、第93条(57条の2)(民間が行う土木工事等のための発掘に関する届け出)の発掘届の推移は以下の通りである。

【発掘届の推移】



平成	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
発掘件数	12	20	26	32	31	18	10	27	20	21
125条(80条)	0	1	1	1	2	4	4	6	0	4
94条(57条の3)	35	39	40	29	29	25	21	41	36	40
93条(57条の2)	136	120	164	124	117	176	143	112	159	155

第3表 発掘届出件数

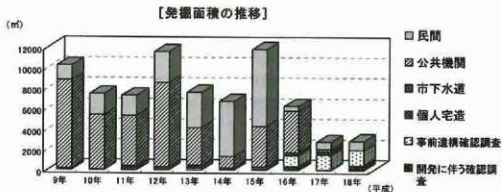
平成18年度の土木工事に関する届出(第94条・第93条)は前節で既述した通りである。史跡名勝天然記念物に関する現状変更許可申請(第125条)は以下の4件である。

施工場所	現状変更内容
史跡武蔵国分寺跡	消化栓補修
史跡武蔵国分寺跡	防犯灯建替
史跡・都指定名勝 真姿の池湧水群	武蔵国分寺僧寺北東地域整備工事
都指定名勝 殿ヶ谷戸庭園	庭園に隣接するマンション擁壁工事

第4表 史跡名勝天然記念物に関する現状変更内容

### 3. 発掘面積の推移

発掘面積の推移は以下の通りである。平成18年度は、公共機関による事業および市下水道事業が調査原因となる発掘調査は行われていない。平成16年度に土地区画再開発事業による武蔵国分寺跡日影山遺跡の発掘調査が終了した以降は、公共機関による開発事業が大幅に減少している。



(平成)	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
民間	1434.9	2072.5	1932.23	2985.43	3448.17	5395.82	7508.6	455.58	694.74	867.74
公共機関	8661	5328.9	4951.95	8255.94	3707	1114.61	3992.98	4088.25	215.2	0
下水道	0	0	64.4	0	110.1	0	0	0	0	0
個人宅造	38.86	71.89	138.1	330.74	165.44	144.48	18.71	263.41	322.59	220.15
遺構確認調査	123.5	0	213.7	0	207.67	117.35	117.4	1055.4	1456.31	1504.92
開発確認調査	0	0	0	0	0	0	149.45	430.17	84.55	513.61

第5表 事業別発掘面積

#### 4. 報告書等の刊行

平成 18 年度に国分寺市教育委員会および国分寺市遺跡調査会が刊行した発掘調査等の報告書は以下のとおりである。調査原因が民間事業による発掘調査報告書 2 冊、国庫補助金による発掘調査報告書 1 冊である。

タイトル	副題	原因
武蔵国分寺発掘調査概報 33	北方地区・西国分寺駅東地区第一種市街地再開発事業に伴う調査	民間
花沢西遺跡発掘調査概報 I	野村不動産株式会社共同住宅建設工事に伴う調査	民間
平成 16・17 年度国分寺市埋蔵文化財調査 年報		国分寺市

第 6 表 刊行報告書

#### 5. 保存のための確認調査

旧第四小学校跡地の利用について、公開空地として保存・整備・活用する「東山道武蔵路」部分を含めて、全面売却する方針が決定された。そのため既往の調査では不明確であった当該地における東山道武蔵路及び関連遺構の正確な位置・規模の確認、また遺構面の深度を確認して、遺構保存に必要な保護層を的確に施すため、平成 18 年 10 月 25 日～11 月 28 日にかけて遺構確認調査を実施した。

#### 6. 国庫補助金によって実施した発掘調査・整理作業

平成 18 年度における国庫補助金によって実施した発掘調査は、23 地区である。事業別内訳は史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）事前遺構確認調査 5 地区、分譲住宅建設等民間開発に伴う確認調査 7 地区（その内 2 地区本調査に移行）、個人住宅建設に伴う本調査 10 地区、旧第四小学校跡地に所在する古代東山道遺構確認調査 1 地区である。

整理作業は、史跡武蔵国分寺跡事前遺構確認調査と、市内遺跡における個人住宅建設および確認調査 17 件の図面整理と出土遺物の基礎整理作業を実施した。



第2表 立会調査内訳一覧(1)

通番	道筋No	申請内容	指示内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査結果	実施日
1	57	ガス	立会	—	—	連絡なし
2	21	ガス	立会	—	—	連絡なし
3	21	ガス	立会	0.7	—	連絡なし
4	19	個人住宅	立会	—	—	連絡なし
5	19	個人住宅	立会	81.05	—	連絡なし
6	10	個人住宅	本調査	186.3	詳細第2章MKIV-607	
7	19	ガス	立会	—	—	連絡なし
8	27	ガス	立会	—	—	連絡なし
9	19	個人住宅	本調査	1513	詳細第2章MKII-608	
10	19	個人住宅	立会	107	覆乱	06.7.10
11	10	電気	立会	39.9	—	連絡なし
12	37	ガス	立会	—	—	連絡なし
13	57	水道	立会	—	—	連絡なし
14	28	店舗	立会	143	覆乱	06.7.14
15	37	駐車場	立会	—	—	連絡なし
16	28	水道	立会	—	—	連絡なし
17	1	電気	立会	—	—	連絡なし
18	19	個人住宅	本調査	159.9	詳細第2章MKI-609	
19	19	ガス	立会	3.5	覆乱	06.5.29
20	8	店舗他	立会	93.9	IV層検出	06.7.7
21	19	水道	立会	222	覆乱	06.7.7
22	19	ガス	立会	1.55	覆乱	06.5.31
23	10	電気	立会	6.87	覆乱	06.6.9
24	19	ガス	立会	0.6	覆乱	06.5.31
25	19	便所配置	立会	—	—	連絡なし
26	19	電気	立会	4	覆乱	06.6.22
27	19	水道	立会	1.2	覆乱	06.6.12
28	19	水道	立会	198	—	連絡なし
29	2	水道	立会	—	—	連絡なし
30	10-19	道路	立会	1.56	—	連絡なし
31	21	個人住宅	立会	127	覆乱	06.7.20
32	19	個人住宅	本調査	164.1	詳細第2章MKII-610	
33	57	個人住宅	本調査	133.3	詳細第2章K57-17	
34	34	ガス	立会	1.32	—	連絡なし
35	7	水道	立会	96	覆乱	06.9.26
36	19	電気	立会	0.03	—	連絡なし
37	10	ガス・水道他	立会	15	東山道武蔵町内側掘削検出	06.6.23
38	19	ガス・水道他	立会	31.6	—	連絡なし
39	19	水道	立会	4.6	覆乱	06.6.23
40	19	宅地造成	確認調査	1599	詳細第2章MKI-611	
41	41	個人住宅	立会	120	GL-30cmでX層上部検出	07.1.12
42	19	個人住宅	立会	153	IIIc~IV層検出	06.7.7
43	21	下水道	立会	7.8	覆乱	06.9.26
44	19	個人住宅	本調査	164.6	詳細第2章MKI-612	
45	21	下水道	立会	3	覆乱	06.6.30
46	19	ガス	立会	0.36	—	連絡なし
47	19	店舗	植重工事	—	—	—
48	9-19	道路	立会	179	—	連絡なし

通番	道筋No	申請内容	指示内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査結果	実施日
50	57	道路	立会	—	—	連絡なし
51	24	電気	立会	3.4	覆乱	07.8.11
52	56	道路	植重工事	—	—	—
53	3	個人住宅	立会	112	IV~Va層検出	06.8.28
54	19	電気	立会	0.25	覆乱	06.8.22
55	19	個人住宅	立会	160	GL-50cmでIV層検出	06.8.10
56	10-19	ガス・水道他	立会	338	覆乱	06.9.12
57	1	駐車場	立会	365	表土	06.8.30
58	19	ガス	立会	1.44	—	連絡なし
59	7	個人住宅	立会	119	IIIb~IIIc層検出	06.07.28
60	10	個人住宅	立会	125	覆乱	06.8.30
61	28	ガス	立会	73.7	近代の地下室検出	06.9.8
62	19	個人住宅	立会	143	覆乱	06.9.2
63	54	集合住宅他	立会	285.3	—	連絡なし
64	19	電気	立会	1.2	覆乱	06.8.25
65	57	水道・排水	立会	1.992	—	連絡なし
66	8	電気	立会	25.1	覆乱	06.10.4
67	8	電気	立会	25.1	覆乱	06.10.4
68	11	集合住宅	立会	223	GL-30~60cmでV層検出	06.11.30
69	3	水道	立会	112	IV層検出	06.9.1
70	37	ガス	立会	41.5	GL-50cmでIIIc層検出	07.4.28
71	5-57	ガス	立会	189	GL-20cmでV層検出	06.10.4
72	19	電気	立会	5.4	覆乱	06.9.13
73	19	電気	立会	1.2	GL-90cmでIII層検出	06.9.18
74	10	道路	立会	20	GL-100cmで段差を物入れ	06.9.20
75	21	下水道	立会	12.9	覆乱	06.9.26
76	19	宅地造成他	立会	1999	覆乱	06.9.8
77	19	個人住宅	立会	118.9	—	連絡なし
78	19	電気	立会	5.4	覆乱	06.9.13
79	57	水道	立会	155	IIIc~IV層検出	06.10.4
80	2	電気	立会	1.2	覆乱	06.12.20
81	20	電気	立会	1.2	覆乱	06.10.20
82	10	道路	立会	1.6	—	連絡なし
83	7	電話	立会	0.96	GL-30cmでV層検出	06.10.20
84	19	個人住宅	本調査	407.5	詳細第2章MKI-614	
85	3	個人住宅	立会	102	覆乱	06.10.2
86	37	電話	立会	0.36	GL-30cmでV層検出	06.11.10
87	54	電話	立会	0.36	—	連絡なし
88	19	電話	立会	0.36	—	連絡なし
89	10	電話	立会	0.36	—	連絡なし
90	10	電話	立会	0.36	—	連絡なし
91	19	ガス	植重工事	—	—	—
92	57	電気	立会	0.6	覆乱	06.10.4
93	11	ガス	立会	0.6	覆乱	06.9.19
94	8	電気	立会	25.1	覆乱	06.10.4
95	6	電気	立会	3.35	—	連絡なし
96	21	個人住宅	本調査	148.67	詳細第2章K21-6	
97	7	分譲住宅	確認調査	77.86	詳細第2章K7-11	

第2表 立会調査内訳一覧(2)

通番	道路 No	申請 内容	指示 内容	工事 面積 (㎡)	調査結果	実施日
49	10-19	水道	立会	163.2	視乱	06.9.1
99	8	ガス	立会	0.5	視乱	06.10.25
100	54	ガス	慎重工事	—	—	—
101	19	ガス	立会	1.09	—	連絡なし
102	19	個人住宅	本調査	108.88	詳細第2章MKIV-615	
103	19	電気	立会	1.2	GL-40cmで目視検出	06.12.30
104	10	電気	立会	1.2	視乱	06.12.30
105	10	個人住宅	立会	0.96	GL-50cmで目視検出	06.11.1
106	19	個人住宅	立会	176.7	—	連絡なし
107	10	ガス	立会	0.7	視乱	06.10.18
108	19	ガス	立会	0.7	—	連絡なし
109	19	分譲住宅	慎重工事	—	—	—
110	19	分譲住宅	立会	99.66	視乱	06.11.29
111	19	ガス	立会	3	GL-80cmで目視検出	06.10.26
112	10	ガス	立会	0.96	GL-50cmで目視検出	06.10.27
113	19	店舗他	立会	465.1	GL-30cmで目視検出	07.2.8
114	19	水道	慎重工事	—	—	—
115	19	ガス	立会	19.34	視乱	06.12.5
116	2	道路	立会	215.3	視乱	06.11.27
117	19	電話	慎重工事	—	—	—
118	19	水路	立会	62	表土	06.11.08-09
119	30	水道	立会	1.12	視乱	06.11.9
120	8	電話	慎重工事	—	—	—
121	19	個人住宅	慎重工事	—	—	—
122	57	電気	立会	22.4	GL-20cmで目視検出	06.12.21
123	57	電気	立会	67.2	視乱	07.1.15
124	57	電気	立会	6.3	—	連絡なし
125	10	電話	立会	0.48	GL-1mで目視検出	06.12.12
126	57	電話	立会	11.32	GL-60cmで目視検出	06.11.17
127	5	電話	立会	0.12	GL-1mで目視検出	06.11.17
128	19	下水道	立会	3.2	視乱	06.12.15
129	19	店舗他	立会	145.7	視乱	06.11.27
130	57	ガス	立会	24.39	GL-60cmで目視検出	06.12.4
131	6-28	下水道	立会	100	視乱	06.11.30
132	10	下水道	慎重工事	—	—	—
133	57	電話	立会	0.72	—	連絡なし
134	28	下水道	立会	1.62	GL-20cmで目視検出	06.12.13
135	10	ガス	立会	1.44	GL-90cmで目視検出	06.12.11
136	10	店舗	本調査	430.82	MKIV-617	
137	10	消火栓補修	立会	3.23	—	連絡なし
138	57	社殿建替	本調査	176.12	K57-15	
139	19	集合住宅	本調査	260.14	詳細第2章MKII-619	
140	57	電話	立会	96.77	—	連絡なし
141	28	道路	立会	39	GL-20-30cmで目視検出	06.12.14
142	8	水道	立会	6.28	視乱	07.3.13
143	41	ガス	立会	—	—	連絡なし
144	19	個人住宅	立会	145	視乱	07.1.25
145	57	電気	立会	7	GL-1mで目視検出	07.3.1
146	21	個人-集合住宅	本調査	637.89	詳細第2章K21-6-8	
147	10	名勝整備	立会	—	—	連絡なし

通番	道路 No	申請 内容	指示 内容	工事 面積 (㎡)	調査結果	実施日
98	54	ガス	慎重工事	—	—	—
148	19	ガス	立会	0.78	GL-40cmで目視検出	07.1.18
149	57	下水道	立会	67	—	連絡なし
150	19	集合住宅	立会	203	GL-50cmで目視検出	07.3.5
151	10-19	史跡整備	立会	3007.3	視乱	07.2.19
152	19	個人住宅	本調査	430.84	詳細第2章MKIII-618	
153	19	ガス	慎重工事	—	—	—
154	35	ガス	立会	1.2	GL-40cmで目視検出	07.1.19
155	8	ガス	慎重工事	—	—	—
156	57	電気	立会	1.44	GL-1.2mで目視検出	07.2.6
157	19	ガス	慎重工事	—	—	—
158	10-19	電気	慎重工事	—	—	—
159	11-19	分譲住宅	立会	174.92	視乱	07.3.5
160	11-19	分譲住宅	立会	138.9	視乱	07.3.5
161	10-19	水道	立会	1.17	—	連絡なし
162	21	電話	立会	0.72	視乱	07.2.8
163	54	ガス	立会	1.74	—	連絡なし
164	57	ガス	慎重工事	2.25	—	—
165	57	ガス	慎重工事	11.7	—	—
166	2	分譲住宅	確認調査	87.49	詳細第2章K2-81	
167	7	水道	立会	33.46	視乱	07.4.10
168	7	ガス	立会	0.06	—	連絡なし
169	53	個人住宅	立会	258.81	—	連絡なし
170	2	集合住宅	立会	110.3	視乱	07.4.5
171	11	ガス	立会	0.7	視乱	07.3.1
172	57	ガス	立会	13.5	視乱	07.3.15
173	54	電話	立会	0.72	—	連絡なし
174	19	ガス	立会	8.25	—	連絡なし
175	19	ガス	立会	0.6	視乱	07.3.9
176	10-19	個人住宅	本調査	214.96	H19年度事業	
177	19	水道	立会	1.8	視乱	07.3.12
178	19	分譲住宅	立会	12	視乱	07.3.20
179	30	集合住宅	立会	215.51	—	連絡なし
180	37	個人住宅	立会	118.24	—	連絡なし
181	37	個人住宅	立会	143.4	GL-30-50cmで目視検出	07.4.24
182	8	個人住宅	本調査	110.9	H19年度事業	
183	10-11	ガス	立会	0.6	視乱	07.3.26
184	8	電気	立会	0.03	視乱	07.3.15
185	57	ガス	立会	—	—	連絡なし
186	2	分譲住宅	立会	113.3	視乱	07.4.6
187	10-19	分譲住宅	立会	96.17	視乱	07.4.6
188	10-19	分譲住宅	確認調査	124.04	H19年度事業	
189	10	ガス	立会	0.84	視乱	07.4.13
190	21	ガス	立会	—	—	連絡なし
191	28-54	ガス	立会	1.08	視乱	07.4.19
192	30	集合住宅	立会	295.32	—	連絡なし
193	19	電話	立会	0.72	GL-40cmで目視検出	07.4.11
194	10-19	宅地造成	本調査	1220	H19年度事業	
195	19	分譲住宅	確認調査	296.91	H19年度事業	

## 第2章 平成18年度埋蔵文化財調査の概要

### 調査の概要

個人住宅建設に伴う調査は、武蔵国分寺跡7件、殿ヶ谷戸遺跡2件、恋ヶ窪東遺跡1件の計10件である。武蔵国分寺跡の各地区は、排水管地下埋設部分を対象として調査を行った。寺院地内は2件、寺院地外は5件である。その他の市内遺跡は、殿ヶ谷戸遺跡で排水管理設とカーポート設置部分(④地区)と地下室建設(⑤地区)を対象に調査を行った。そのうち④地区は個人住宅兼分譲住宅であるため、確認調査後、個人宅造・原因者に分けて本調査を行った。恋ヶ窪東遺跡は排水管理設部分を対象に調査を行った。

開発民間に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡で4件、恋ヶ窪遺跡で1件、多摩菟坂遺跡で1件、殿ヶ谷戸遺跡で1件の計7件である。このうち武蔵国分寺跡と殿ヶ谷戸遺跡で各1件(①・⑤地区)が本調査に移行した。

### 発見遺構と出土遺物

武蔵国分寺跡は、僧寺寺院地内の調査区は調査面積が狭小のため、遺構の全容は不明であったが、③・④地区では奈良・平安時代の独立柱建物の柱穴が検出された。寺院地外の調査区では、②地区で東山道武蔵路(SF1)および幅員12mと9m時の東側溝(SD201・202)が検出された。幅員12m時の東側溝であるSD201では、本調査区の北側に位置する旧鉄道学跡跡地発掘調査で確認された、SD201埋没後に道路面として使用したと推測されている第2期目の路面である黄褐色土層の硬質面に対応する層を確認した。①地区では、僧寺寺院地区画溝(SD12・13)の平面プランを確認した。④・⑥地区は、武蔵野段丘上恋ヶ窪谷壁斜面付近に立地しており、④地区で縄文時代の土坑2基と小穴16基が検出されたほか⑥地区では歴史時代の溝1条と小穴4基が検出された。

武蔵国分寺跡以外の遺跡では、殿ヶ谷戸遺跡において⑤地区で縄文時代中期の竪穴住居1軒と集石土坑1基と小穴32基が検出された。竪穴住居は、柱穴8基が検出され、支柱穴4基の竪穴住居がほぼ同位置で建て替えられたと考えられる。旧石器時代の調査坑からは、遺構は検出されなかったが、IV層からナイフ形石器1点が出土した。

出土遺物は、武蔵国分寺跡では④地区で石鏃、磨製石斧が出土した。⑥地区では土師器環、縄文土器が出土した。殿ヶ谷戸遺跡の⑤地区では旧石器時代のナイフ形石器と加曾利E式を中心とする縄文時代中期の深鉢や打製石斧、磨石、剥片他の石器等が多数出土した。

### まとめ

武蔵国分寺跡は、①・②地区が厚い調査事例を有する僧寺寺院地区画溝及び東山道武蔵路上に立地しており、既往の調査と対応する遺構の形態等をそれぞれ確認した。寺院地外においては武蔵野段丘上の④地区で縄文時代の遺構が検出され、恋ヶ窪谷壁付近における恋ヶ窪南遺跡以南の縄文時代の遺跡の広がりが看守できた。⑥地区では歴史時代の溝から、平安時代の土師器環が出土しており、国分寺崖線上の僧寺北東地域に展開する平安時代の集落の北東限に属する遺構を確認した。⑥地区では、地山(Ⅲb層)が現地地表約170cmから検出され、現況の地形では平坦面を呈しているが、旧地形は南接する野川支流により、深く開削されていたことが分かった。

殿ヶ谷戸遺跡は、④・⑤地区で縄文時代の遺構・遺物が検出された。従来、本多谷と殿ヶ谷戸谷に囲繞された残丘上に立地し、湧水地点を有していることから、縄文時代の集落の好立地条件であるとされながら調査の稀少性から遺跡の概要が不明であった本遺跡において、縄文時代の集落および旧石器時代の遺跡の存在が推測される好資料となった。

## 平成18年度調査地区一覧

第7表 武蔵国分寺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊸	19	個人宅造地 第607次調査	西元町2丁目17-18	12.69	60.55	186.28	H18.5.15～H18.5.26 (8日間)	(歴史)溝2条・道路遺構1条	1
㊹	19	個人宅造地 第609次調査	泉町1丁目7-12	9.30	69.56	159.89	H18.6.5～H19.6.15 (6日間)	(縄文)土坑2基・小穴16基	1
㊺	10-19	個人宅造地 第610次調査	西元町3丁目1531-3	18.82	65.61	164.06	H18.6.20～H18.6.28 (6日間)	(歴史)溝1条・住穴1基	1
㊻	19	個人宅造地 第612次調査	泉町1丁目2386-48	9.60	64.90	154.57	H18.7.10～H18.7.13 (3日間)	検出遺構なし	1
㊼	19	個人宅造地 第614次調査	泉町1丁目10-4	17.26	90.26	407.54	H18.10.5～H18.10.13 (5日間)	(歴史)溝1条・小穴4基	1
㊽	11-19	個人宅造地 第615次調査	西元町2丁目10-3	8.24	51.50	106.58	H18.10.20～H18.10.27 (5日間)	(歴史)小穴2基	1
㊾	10-19	個人宅造地 第618次調査	西元町3丁目2109-3	7.50	430.84	88.06	H19.2.21～H19.2.22 (2日間)	検出遺構なし	0
面積合計				74.11	833.22	1265.98		箱数合計	6

第8表 武蔵国分寺跡 分譲住宅等建設に伴う確認調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊿	10-19	賃貸施設建設 第606次調査	西元町3丁目2204-1,2205	8.40	503.55	1,312.93	H18.4.20～H18.4.21 (2日間)	(歴史)溝2条	0
㊽	19	分譲住宅建設 第608次調査	東元町4丁目1764	271.50	211.52	1512.64	H18.5.10～H18.5.17 (6日間)	検出遺構なし	0
㊾	10-19	宅地造成 第611次調査	東元町3丁目1447-1	101.47	181.40	1598.00	H18.7.4～H18.7.12 (7日間)	検出遺構なし	1
㊿	10	共同住宅建設 第619次調査	西元町3丁目1578-11, 21, 28	4.62	99.37	260.14	H19.2.26 (1日間)	(歴史)住穴1基	1
面積合計				284.52	995.84	4683.31		箱数合計	2

第9表 恋ヶ窪遺跡 分譲住宅等建設に伴う確認調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊽	2	分譲住宅建設 第81次調査	西恋ヶ窪1丁目20-10	7.20	36.00	87.49	H19.3.19～H19.3.20 (2日間)	(歴史)溝1条・土坑1基・小穴3基	1
面積合計				7.20	36.00	87.49		箱数合計	1

第10表 多摩川板遺跡 分譲住宅等建設に伴う確認調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊽	7	分譲住宅建設 第11次調査	内藤1丁目1-16	0.40	31.05	77.86	H18.9.28 (1日間)	検出遺構なし	0
面積合計				0.40	31.05	77.86		箱数合計	0

第11表 殿ヶ谷戸遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊽	21	個人宅造地 第5次調査	南町2丁目10-23	5.89	62.14	148.67	H18.10.5～H18.10.13 (5日間)	(縄文)土坑2基・小穴3基 (歴史)小穴2基	1
㊾	21	個人宅造地 第8次調査	南町2丁目282-15, 16	60.00	258.40	637.89	H19.3.9～H19.3.26 (11日間)	(縄文)住居1軒・東石土坑1基・小穴32基	2
面積合計				5.89	320.54	786.56		箱数合計	3

第12表 殿ヶ谷戸遺跡 分譲住宅等建設に伴う確認調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊽	21	共同住宅建設 第6次調査	南町2丁目282-15, 16	106.42	258.40	637.89	H19.2.5～H19.3.8 (4日間)	(縄文)住居1軒・小穴3基	1
面積合計				106.42	258.40	637.89		箱数合計	1

第13表 恋ヶ窪東遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
㊽	57	個人宅造地 第17次調査	本町4丁目2874-5	9.76	77.25	133.26	H18.7.20～H18.7.27 (5日間)	(縄文)小穴1基	1
面積合計				9.76	77.25	133.26		箱数合計	1



## ①武蔵国分寺跡第606次調査 確認調査

所在地 西元町3丁目2204-1、2205

調査面積 8.40㎡

調査期間 平成18年4月20日～4月21日（2日間）

担当者 小野木 敦

## 調査概要

調査区は武蔵国分僧寺寺院地に含まれ、僧寺中軸線から西へ約230m、寺院地の西側区画である東山道武蔵路から東へ約30mの僧尼寺中間地点に位置する。賃貸施設建設工事に伴う基礎の埋設により遺構に影響が及ぶ範囲については発掘調査（第605次調査）を行い、その範囲外において寺院地南辺区画溝（SD12・13）の位置確認を目的とした本確認調査を行った。

武蔵国分寺寺院地南辺区画溝（SD12・13）の遺構プランを検出した。地表下約40cmで地山（Ⅲc層）を検出し、遺構確認を行った。調査区の中央は、畝状耕作土による攪乱を受けており、部分的に遺構のプランを確認した。SD12の上面幅は確認面で1.4m、SD13の上面幅は確認面で1.2mである。なお隣接地において行われた東京都埋蔵文化財センターによる調査（参考文献）を参考によると、SD13→SD12の順に掘削されている。なお、本調査地点におけるSD12は東京都埋蔵文化財センターのSD11に、SD13はSD12にそれぞれ対応する。

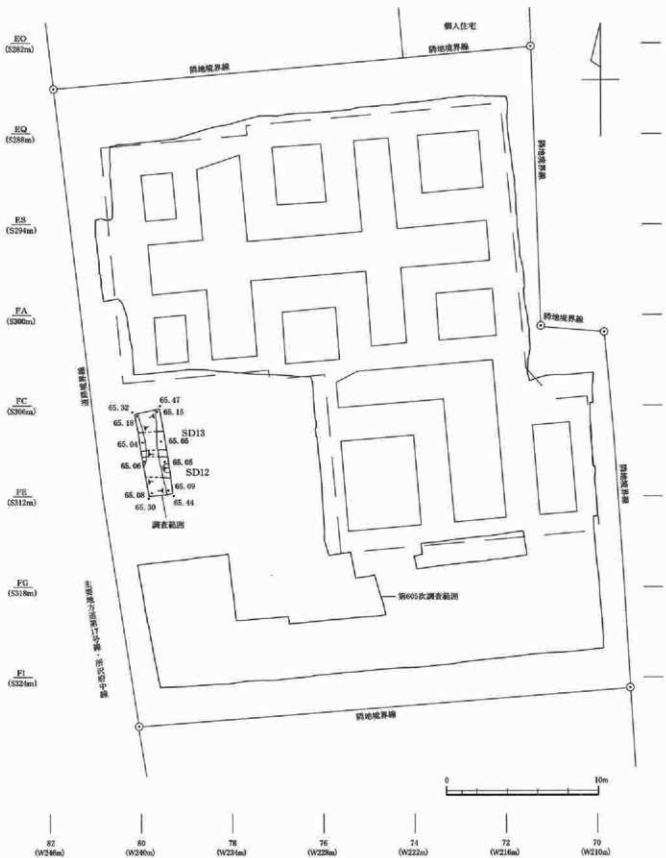
## 出土遺物

なし

（参考文献）東京都埋蔵文化財センター2006『東京都埋蔵文化財センター調査報告 第181集 国分寺市武蔵国分寺遺跡』



調査区全景（北から）



①地区 第606次調査区全体図

## ②武蔵国分寺跡第607次調査 個人宅遺地

所在地 西元町2丁目17-18

調査面積 12.69㎡

調査期間 平成18年5月15日～5月26日(8日間)

担当者 立川 明子

## 調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺院地区画溝から約180m北の武蔵野段丘上、東山道武蔵路比定地上に位置している。調査の対象は、排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲の発掘調査と、調査対象地内で住宅建設の影響の及ばない範囲において、東山道武蔵路の東側溝の遺構プランの確認調査を行った。発掘調査を行った調査区をAトレンチ、確認調査を行った調査区をBトレンチとして設定した。

遺構は溝2条(SD201、SD202・東山道武蔵路東側溝)、道路1条(SF1・東山道武蔵路)が検出された。

Aトレンチでは地表下60cmでSD201、SF1が検出された。

SD201は、東山道武蔵路の東西側溝心々距離9m幅を構成する東側溝である。規模は、上面幅80cm、底面幅45cm、深さ30cmで、断面形は逆台形状を呈している。SF1の硬質面を掘り込んで構築されている。SD201の覆土最上層は、しまりが強く、硬質面を構築しているため、SD201埋没後には道路として使用されたと考えられる。

SF1は、東山道武蔵路である。地山III層に路面が構築されている。路面上には2層の硬質面が確認でき、道路使用面としては3期の変遷が確認できた。SD201が硬化面の最上層から掘り込まれているため、東山道構築時の東西側溝心々距離12m幅の路面に伴っており、9m幅時まで使用された面と考えられる。また、硬化面はAトレンチ西側に検出され、調査区外になるが、道路中央部にかけて路面が硬化していると考えられる。

Bトレンチは表土及び耕作土が厚く堆積しており、確認調査であるため掘削深度を考慮し、遺構確認面まで表土を除去せず、SD201は確認しなかった。SD202は、排水管の吸い込み埋設部によって攪乱されている箇所において部分的に覆土上層を確認することができた。

SD202は東山道武蔵路の心々距離幅12m時に伴う東側溝である。攪乱されているためトレンチ内の規模は不明である。旧国鉄中央鉄道学園跡地発掘調査(参考文献)で検出された第2期目の路面とされる黄褐色土層の硬化面に対応すると考えられる層を確認した。なお本調査地の南側に隣接する第427次調査区でも対応する層が確認されており、鉄道学園跡地で考察されたように黄褐色土による整備・補修が当該調査区まで続いていることが確認された。

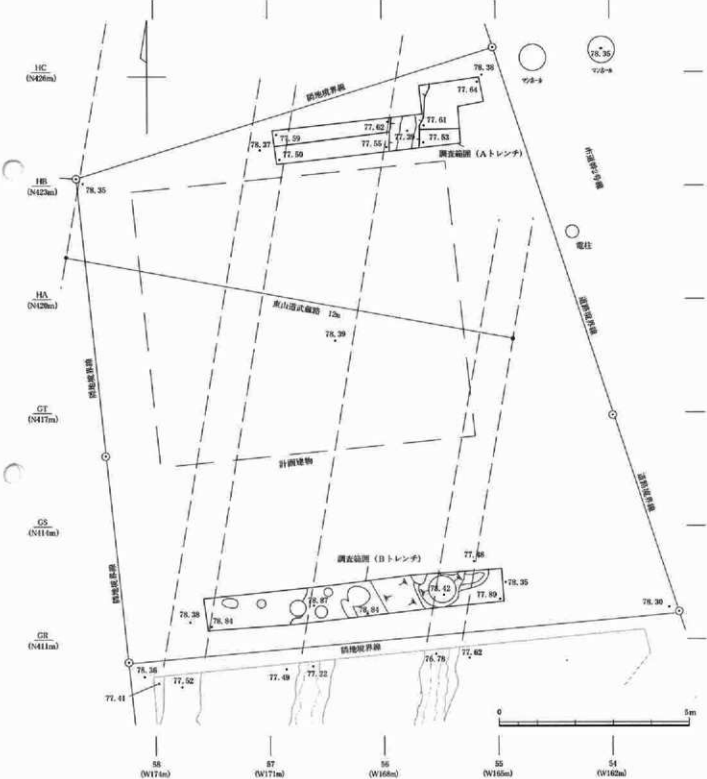
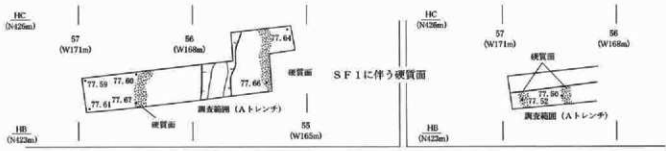
## 出土遺物

表土から須恵器甕1点、土師器坏2点、土師器小型甕2点、不明土師器1点、女瓦1点が出土しているがいずれも小片である。

(注) 西国分寺地区遺跡調査会1999『武蔵国分寺跡北方地区 日影山遺跡・東山道武蔵路』



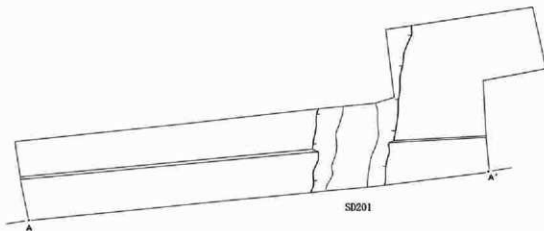
平成18年度 各調査の概要



②地区 第607次調査区全体図

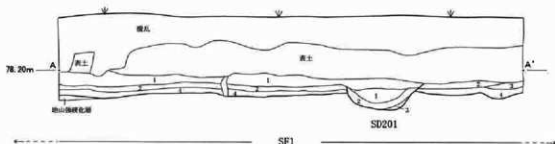


Aトレンチ平面図



HA  
0M20  
S7  
(0171)

Aトレンチ南壁土層断面 (反転)



SF1

- 1 黒褐色土 しまりやや強く、粘性やや弱い ローム粒子微量
- 2 暗褐色土 硬質面 しまり強く、粘性やや弱い 赤色スコリア少量
- 3 暗褐色土 硬質面 4層に類似 赤色スコリア、ロームブロック少量
- 4 暗褐色土 硬質面 2層よりしまり強く、粘性やや強い 赤色スコリア微量

SD201

- 1 黒褐色土 しまり強く、粘性やや弱い ローム粒子少量
- 2 黒褐色土 しまりやや弱く、粘性弱い ロームブロック少量
- 3 黄褐色土 しまり、粘性やや強い 暗褐色土ブロック少量





Aトレンチ歴史時代全景 (東から)



Bトレンチ歴史時代全景 (東から)



SF1道路硬質面断面 (南から)



SD201溝全景 (南から)



SD201溝全景 (東から)



SD201溝断面 (南から)



SD201溝攪乱部分 (北から)



SD201溝攪乱部分 (西から)

③武蔵国分寺跡第608次調査 確認調査

所在地 東元町4丁目1764

調査面積 271.50㎡

調査期間 平成18年5月10日～5月17日（6日間）

担当者 立川 明子

調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺院地東辺区画溝（SD62）から約200m東に位置する。周辺は調査事例が少なく、遺構の検出数も稀少な地域である。調査は、道路建設・浸透升設置により遺構に影響が及ぶ範囲において確認調査を行った。地表下約30cm～40cmの地山（Ⅲc～Ⅳ層）を検出し遺構確認を行った。遺構確認面は、耕作土や植栽痕による攪乱を多くうけており、遺構プランは確認できなかった。

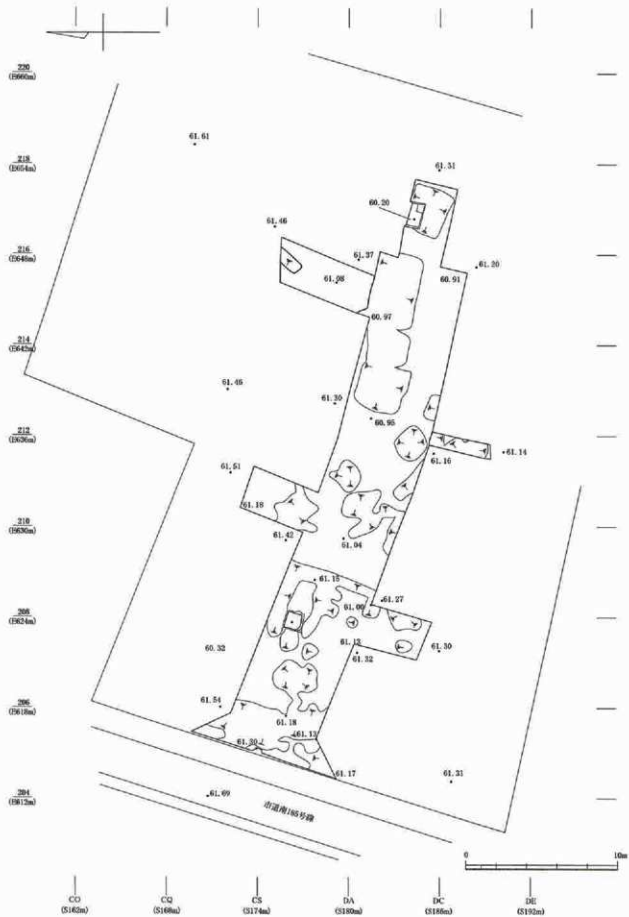
出土遺物

なし



歴史時代確認全景（東から）

平成18年度 各調査の概要



③地区 第608次調査区全体図

## ④武蔵国分寺跡第609次調査 個人宅遺地

所在地 泉町1丁目7-12

調査面積 9.30㎡

調査期間 平成18年6月5日～6月15日(8日間)

担当者 小野本 敬

## 調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺寺院地北辺区画溝から約250m北に位置する。武蔵野段丘上で、恋ヶ窪谷を形成する野川本流から150mほど西の恋ヶ窪谷壁付近に立地する。周辺の調査では縄文時代・歴史時代の遺構が検出されており、野川源流付近に分布する縄文時代の集落と、武蔵野段丘面上の北辺区画溝を中心に広がる歴史時代の集落が営まれる地域である。調査は排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲において発掘調査を行った。

地表下30～40cmで地山(Ⅲb層)を検出し、遺構確認を行った。土坑2基(SK3314J・3315J)、小穴16基(PJ-1～16)を検出した。

SK3314Jは、調査区外へ広がるため全容は不明だが平面形は隅丸長方形を呈している。規模は上面幅2m、底面幅80cm、深さ60cmで、断面形は逆台形状を呈する。覆土は暗褐色土層が主体であり、しまりが強い。東側遺構の立ち上がり段を有しており、土層断面にも逆台形状の掘り込みが観察できるため、掘り直しをした可能性が考えられる。

SK3315Jは、調査区外へ広がるため全容は不明だが、平面形は隅丸方形を呈している。規模は上面幅90cm、底面幅55cm、深さ50cmで、断面形は逆台形状を呈する。覆土は粗粒の黒褐色土層が主体であり、しまりは強く粘性は弱い。中央をPJ-7に切られている。PJ-7の覆土は、粗粒の黒褐色土層(Ⅲa層類似土混じり)であり、SK3315Jと一体として柱穴とみることできる。しかし、遺構範囲は調査区外に延び、全容が不明であることもあり、現状では別遺構として登録している。

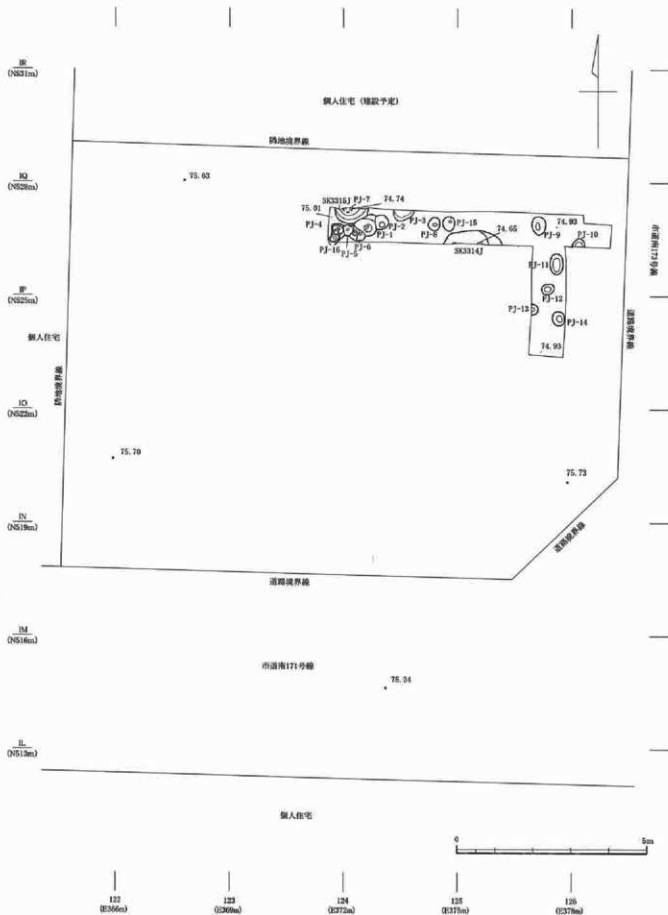
小穴は、確認面から深さが40cm以下の小規模なものが多数を占めている。掘り方の形状も多様であり、小穴の性格、小穴間の関連は不明である。PJ-4～6は深さが30～35cmで切り合っている。掘り方の形状が異なっているため掘り直しかどうかは不明である。

## 出土遺物

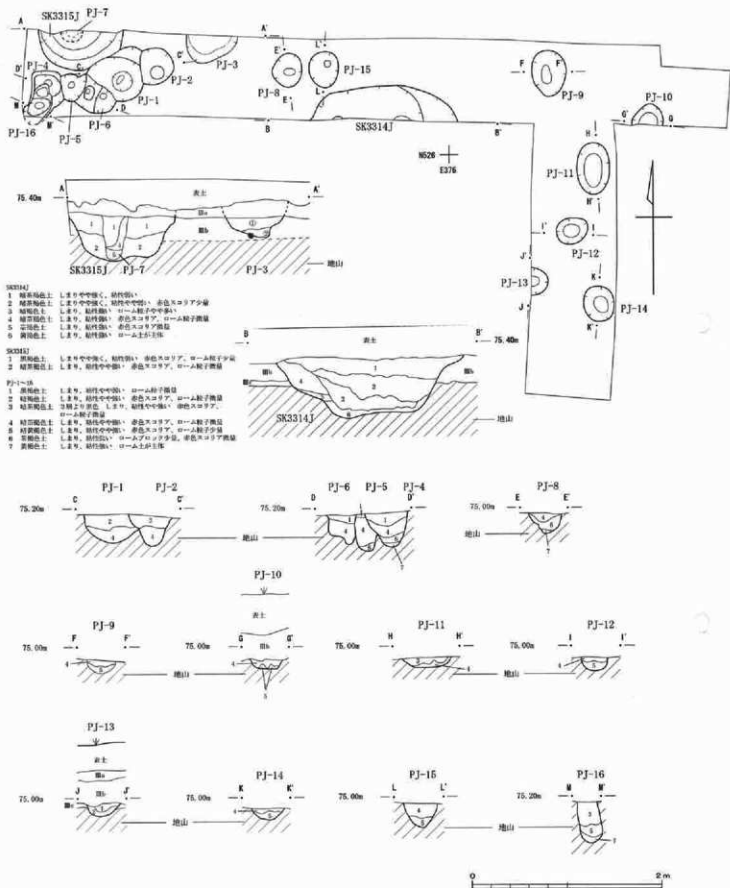
Ⅲb層確認面から縄文時代の土器3点、石器4点、礫3点が出土した。遺構に伴う遺物は、SK3314Jから礫1点、SK3315Jからチャート1点、PJ-1から石器2点、チャート2点、PJ-2からチャート1点、礫1点、PJ-3から礫2点、PJ-4から縄文土器1点、PJ-6から黒曜石1点が出土している。

図面・図版1、2はPJ-1の覆土中から出土した。1は挟入磨石である。両側面に敲打により挟り部を作出している。表裏両面が非常によく摩耗している。上下側面にも敲打痕が見られるため、刃部を作出する途中の打製石斧未製品である可能性も考えられる。2は石鏃未製品である。表面に打瘤が観察できる。図面・図版3はⅢb層確認面から出土した磨製石斧である。表面は、入念に研磨されている。刃部は片縁状に整形されている。

平成18年度 各調査の概要



④地区 第609次調査区全体図



第609次調査 SK3314J・3315J土坑、PJ-1~16小穴 実測図





歴史時代全景 (西から)



縄文時代全景 (西から)



縄文時代全景 (南から)



縄文時代全景西部分 (西から)



SK3314J土坑全景 (北から)



SK3315J土坑、PJ-7小穴土層断面 (南から)



PJ-3小穴全景 (南から)



PJ-16小穴全景 (北から)

## ⑤武蔵国分寺第610次調査 個人宅造地

所在地 西元町3丁目1531-3

調査面積 18.82㎡

調査期間 平成18年6月20日～6月28日(6日間)

担当者 上川 明子

## 調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺院地内に位置し、約4m西には僧寺伽藍地東辺区面溝(SD23)が検出されている。周辺の調査区からは奈良・平安時代の掘立柱建物・堅穴住居・土坑が検出されており、中枢部であることから、これらの遺構は寺院付属施設の可能性が考えられる。調査の対象は、排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲を発掘調査した。また、排水管理設範囲は、建物建設部と北側隣地境界施設に挟まれており、遺構確認を行うにあたって十分な調査範囲を確保できなかったため、建物造成に影響が及ばない範囲にもトレンチを設定し発掘調査を行った。排水管理設部の北側調査区をAトレンチ、建物建設部を避けた南側調査区をBトレンチとして設定した。

Aトレンチは、掘削深度である地表下20～40cmで地山(IV層)を確認した。調査区は攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。

Bトレンチは、地表下約30～50cmで(IV層)で遺構確認を行った。

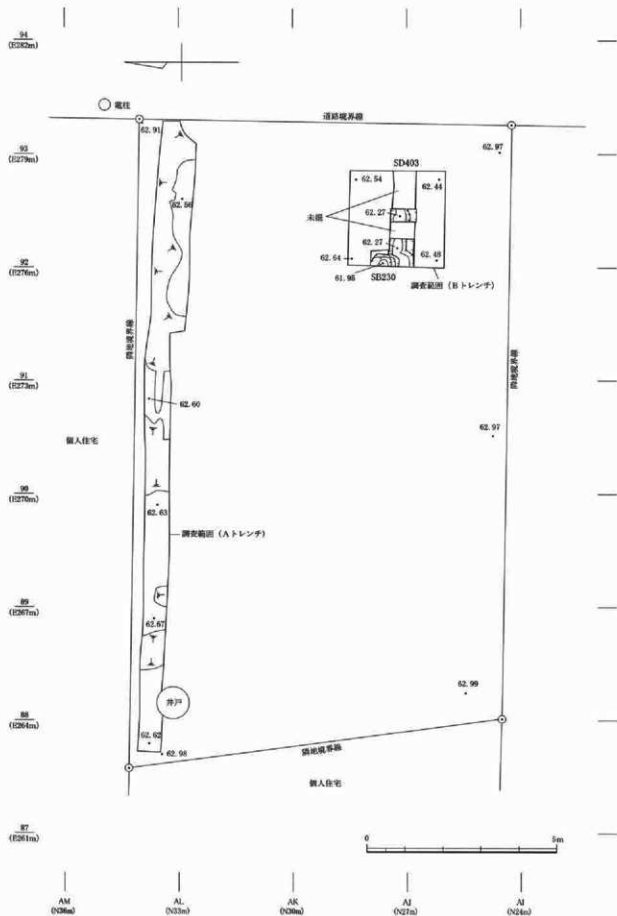
遺構は、歴史時代(奈良・平安時代)の溝1条(SD403)と柱穴1基(SB230)が検出された。

SD403は、Bトレンチから検出された東西溝である。Bトレンチ内にサブトレンチを設け部分的な遺構掘り方の確認を行った。遺構は、根による攪乱を著しく受けていたため、全体の形状は不明であるが、断面形は逆台形を呈している。確認できた長さは東西2.5m以上(Bトレンチ内範囲)であり、幅員は上面幅60cm、底面幅30cm、深さは確認面から約20cmである。

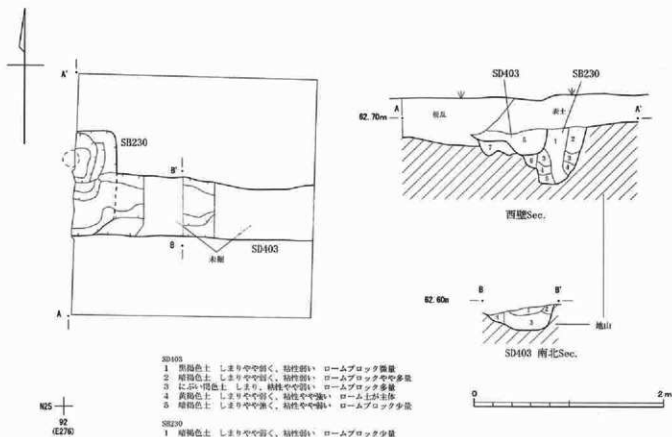
SB230は、Bトレンチから検出された柱穴と考えられる遺構である。調査区外に遺構範囲が広がり、上層をSD403によって切られているため、全容は不明であるが、柱の据え方の南側に浅い張り出し状の掘り込みが伴うと考えられる。調査区内の確認範囲で柱の据え方は径約40～50cm、深さ約60cmで、張り出し部は南北約50cm、深さ約10cmである。

## 出土遺物

遺構に伴う遺物としてはSD403から不明瓦片が1点出土している。その他表土から須恵器蓋1点、須恵器甕1点、女瓦3点、攪乱から女瓦1点が出土している。



⑤地区 第610次調査区全体図



第610次調査 SB230柱穴、SD403溝 実測図



Aトレンチ歴史時代確認全景 (東から)



Bトレンチ歴史時代全景 (東から)



SB230柱穴、SD403溝土層断面 (東から)



SB230柱穴土層断面 (南から)

⑥武蔵国分寺跡第611次調査 確認調査

所在地 東元町3丁目1447-1

調査面積 101.47㎡

調査期間 平成18年7月4日～7月12日（7日間）

担当者 小野本 敦

調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺寺院地東辺区画溝（SD62）から約200m東に位置する。調査事例が少なく、遺構の検出も稀少な地域である。地表下約60cm～140cmまでローム土による盛り土がなされている。地表下約170cmの黒褐色土（Ⅲb層）の地山面において、歴史時代の遺構確認を行った。遺構確認面は耕作土や植栽痕による攪乱を多く受けており、遺構のプランは確認できなかった。

出土遺物

表土から須恵器坏4点、埴1点、土師質土器坏1点、縄文土器1点、礫2点が出土した。いずれも小片である。



調査区全景（北から）

平成18年度 各調査の概要



⑥地区 第611次調査区全体図

⑦武蔵国分寺跡第612次調査 個人宅造地

所在地 泉町1丁目2386-48

調査面積 9.6㎡

調査期間 平成18年7月10日～7月13日（3日間）

担当者 立川 明子

調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺寺院地北辺区画溝(SD63)から約250m北に位置する。④地区に隣接する。調査の対象は、排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲について発掘調査を行った。調査区内は東側に大きく攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。また縄文時代の遺構確認のため、調査区南西隅にサブトレンチを設けてⅢc層まで掘り下げ、遺構確認を行ったが遺構は検出されなかった。

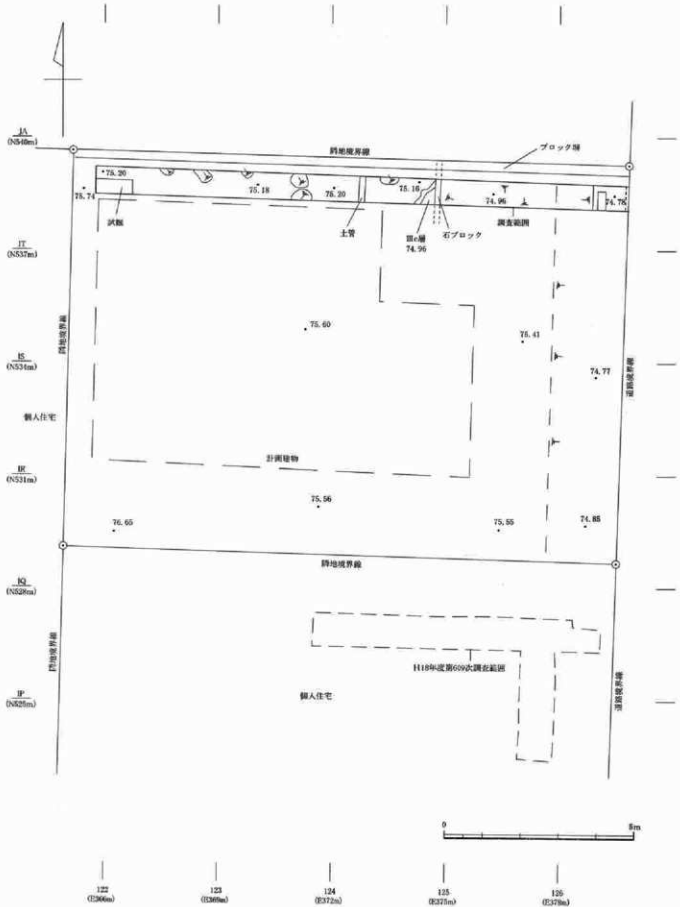
出土遺物

Ⅲb層確認面から縄文土器2点、礫2点が出土した。いずれも小片である。



調査区全景（西から）

平成18年度 各調査の概要



⑦地区 第612次調査区全体図



## ⑧武蔵国分寺跡第614次調査 個人宅遺地

所在地 泉町1丁目10-4

調査面積 17.26㎡

調査期間 平成18年10月5日～10月13日（5日間）

担当者 小野木 敦

## 調査概要

調査区は、武蔵国分僧寺寺院地北辺区画溝（SD63）から約320m北に位置する。武蔵野段丘上で、恋ヶ窪谷を形成する野川本流から200mほど西の、恋ヶ窪谷壁付近に立地する。近接する調査区からは縄文時代の住居、集石土坑が検出されている。調査の対象は、排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲について発掘調査を行った。

調査区内は地山が比較的良好に残されており、現地表面下約30cmでⅢa層を、約50cmでⅢb層を確認した。Ⅲb層中で遺構確認を行い、溝1条と小穴4基を検出した。

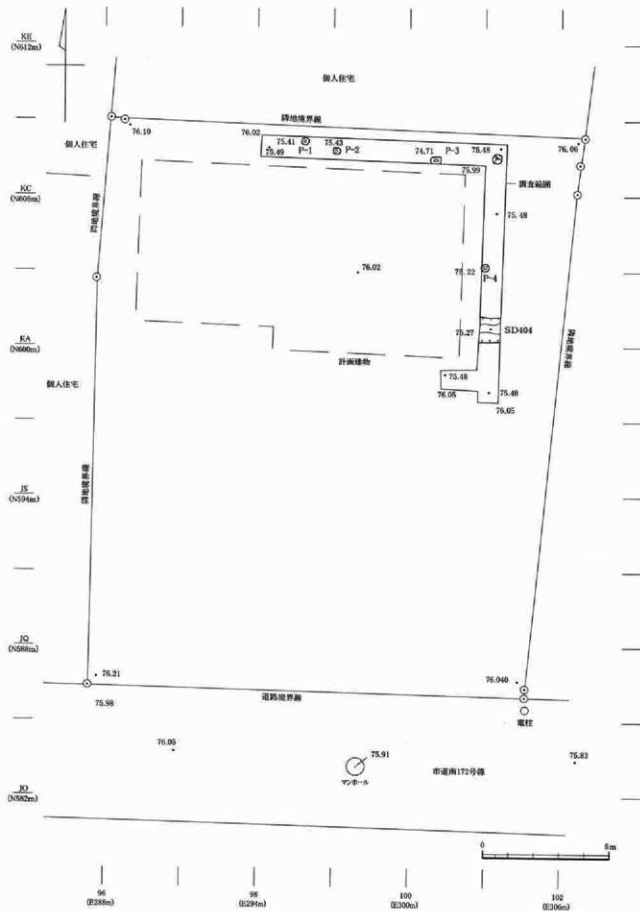
SD404は、規模は上面幅60cm、底面幅30cm、深さ(表土下層より)40cmである。断面は逆台形状を呈している。底面付近から体部外面下半ヘラ削りの坏が出土しており、この溝の廃絶時期が平安時代中期から後期であることを示している。

P-3は深さ約80cm、平面形が隅丸方形を呈し、柱穴の可能性が考えられるが明確な柱痕は確認できなかった。P-3以外の小穴は深さが30cmにも満たない小規模なものであり、遺構の性格は不明である。

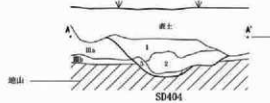
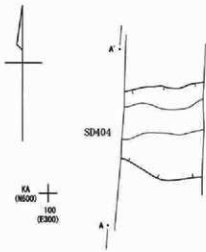
## 出土遺物

遺構に伴う遺物は、SD404の覆土中から土師器坏3点、P-3の覆土中から礫1点、P-4から縄文土器1点が出土した。その他Ⅲb層確認面から縄文土器1点、黒曜石1点、礫1点が出土した。

図面・図版5、6はSD404から出土した。土師器坏である。手づくね整形で底部と体部外面下半は手持ちヘラ削り調整されている。図面・図版7は確認面から出土した縄文土器深鉢である。口縁部に単筋縄文LRを横位に施している。加曽利E3式である。



⑧地区 第614次調査区全体図



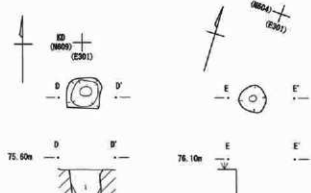
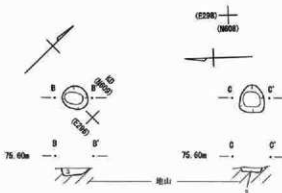
- SD404
- 1 黒褐色土 しまりやや弱く、粘性強い ローム粒子微量
  - 2 黒褐色土 しまりやや強く、粘性弱い ローム粒子少量
  - 3 暗褐色土 しまり、粘性やや強い ローム粒子微量

P-1

P-2

P-3

P-4



P-1~4

- 1 黒褐色土 しまり、粘性弱い ローム粒子微量
- 2 黒褐色土 しまり、粘性やや強い ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 しまり、粘性やや強い ローム粒子微量



第614次調査 SD404清、P-1~4小穴 実測図



歴史時代全景東部分 (北から)



歴史時代全景北部分 (西から)



SD404清全景 (西から)



P-3全景 (北から)

## ⑨武蔵国分寺跡第615次調査 個人宅造地

所在地 西元町2丁目10-3

調査面積 8.24㎡

調査期間 平成18年10月20日～10月27日（5日間）

担当者 立川 明子

## 調査概要

調査区は、国分寺崖線付近の武蔵野段丘縁辺に立地する。武蔵国分僧寺の西側寺院地区画である東山道武蔵路から約30m西に位置し、多喜窪遺跡A地点にも含まれる。調査は排水管理設と出入り口階段設置により遺構に影響が及ぶ範囲について発掘調査を行った。調査地内にA・Bトレンチを設定し、調査を行った。

Aトレンチは、地表面下30～40cmの地山（Va層：黄褐色ローム層）で遺構確認を行った。遺構は検出されていない。確認面上層では、宅地分譲開発の際の造成土と考えられるVa層と非常に類似した盛土を確認した。

Bトレンチは、前述の開発に伴うと考えられる掘削により、調査区内は盛土が地表下深くまで及んでおり、工事の掘削深度と同様のレベルからVb層が平面的に検出された。また、トレンチ北壁セクションでは、地表下30cmからVa層を確認した。

遺構確認はVb層で行った。遺構は小穴が2基検出された。遺構の覆土が暗褐色であること等の特徴から歴史時代の遺構と考えられる。

## 出土遺物

遺構に伴う遺物は、P-2の覆土中から石片が1点出土している。その他表土中から須恵器甕が1点出土している。



Aトレンチ遺構確認全景（北から）



Bトレンチ遺構確認全景（東から）



⑩第618次調査 個人宅遺地

所在地 西元町3丁目2159-3

調査面積 7.5㎡

調査期間 平成19年2月21日～2月22日（2日間）

担当者 立川 明子

調査概要

調査区は、武蔵国分寺僧寺院地に含まれる。僧寺中軸線から約30m西に位置する。

調査対象が排水管理設範囲であり、当該工事では既設管を利用するため、調査の掘削深度も既設管を検出したレベル（地表下45cm）で面的に広げ遺構確認を行った。そのため通常の遺構確認面である地山検出まで至らず、排水管理設において地中の遺構に影響がないことを確認するのみにとどめた。

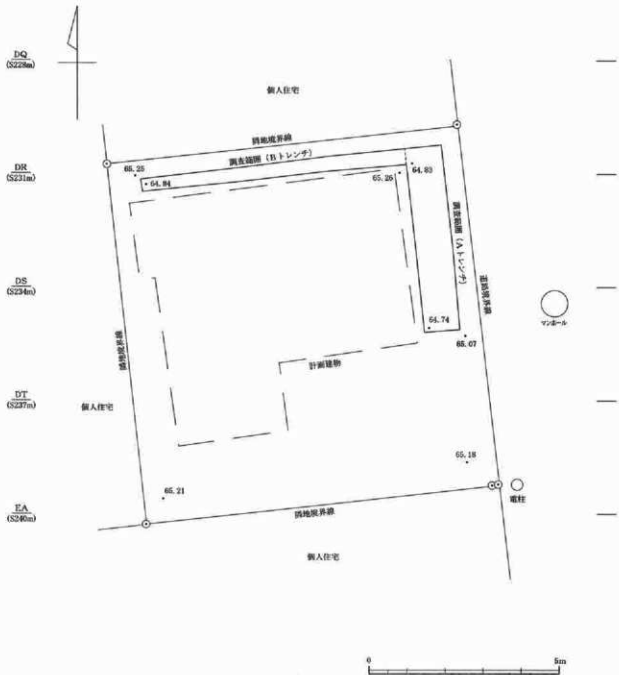
出土遺物

なし



調査区全景北部分（東から）

平成18年度 各調査の概要



⑫地区 第618次調査区全体図

## ⑪第619次調査 確認調査

所在地 西元町3丁目1578-11、21、28

調査面積 4.62㎡

調査期間 平成19年2月26日（1日間）

担当者 立川 明子

## 調査概要

調査地は、武蔵国分僧寺伽藍地内であり、僧寺中軸線から約130m東に位置する。共同住宅建設工事に伴う、排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲の遺構確認調査を行った。

現地表下70cmで検出された地山（Ⅲc層）で遺構確認を行った。検出遺構は、掘立柱建物SB72の柱穴3-8である。

SB72は、既往の調査では、当該調査地西側に隣接する第318・328次調査区で南北方向7間の柱列が、南側では464次調査区で東西2間の柱列が検出されており、柱間約2.9m、7間×2間の掘立柱建物が確認されている。

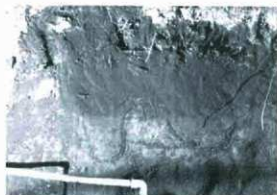
当該調査区から検出された柱穴3-8は、攪乱により平面プランが壊されており、部分的な確認のみにとどまった。柱穴3-8の南側に、柱穴の覆土に類似した褐色土の広がりを確認したが、既往の調査で検出された各柱穴端での間隔は約1.7~2.0mであるのに対して、柱穴3-8の端から褐色土の広がりまでは約1.5mほどの間隔しかなく、柱穴3-7の覆土が攪乱されて確認面に露出したものであると考えられる。柱穴3-7が推定される位置は、工事掘削深度により、表土を確認面まで掘り下げて精査していないため遺構プランは未確認であるが、前述のロームブロックを多く含む褐色土の広がりが表土に混じって確認されたため、表土下には柱穴3-7の存在が想定される。

## 出土遺物

遺構に伴う遺物は出土していない。表土から男瓦3点、女瓦2点が出土した。いずれも小片である。



歴史時代確認全景（北から）



SB72 掘立柱建物確認状況（西から）





⑪地区 第619次調査区全体図

## ⑫恋ヶ窪遺跡 第81次調査 確認調査

所在地 西恋ヶ窪1丁目20-10

調査面積 7.2㎡

調査期間 平成19年3月19日～3月20日（2日間）

担当者 立川 明子

## 調査概要

調査区は、恋ヶ窪遺跡に含まれる。遺跡範囲のほぼ中央に位置し、恋ヶ窪谷からさんや谷に囲まれた台地上に立地する。調査の対象は、分譲住宅建設の排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲について確認調査を行った。

工事深度が現地表面下約50cmのため、地山（Ⅲb層）で遺構確認を行った。調査区内は、北側に攪乱を受けており、南側は上層の耕作土の落ち込みが見られたが、地山の残存状況は良好で、歴史時代の溝1条(SD25)と土坑1基(SK200)と小穴3基(P1～3)が検出された。縄文時代の遺構は検出されなかった。

## 出土遺物

表土中から縄文土器34点、石器2点、礫8点が出土している。遺構に伴うものはなかった。

図面・図版8、9は勝坂式土器である。8は隆起帯を貼り付けヘラ状工具により刻みを入れる。隆起帯脇には沈線がなぞっている。図面・図版10は加曾利式である。単節RLを横位に施工し、断面円形の隆起帯を貼り付けている。図面・図版11は曾利式である。隆起帯を横位に波状に貼り付け、半截竹管により弧状の沈線を描く。

図面・図版12、13は打製石斧である。側辺を敲打により凸状刃部を作出している。



歴史時代確認全景（北から）



SD25溝、SK200土坑全景（西から）



①地区 第81次調査区全体図

⑬多摩蘭坂遺跡 第11次調査 確認調査

所在地 内藤1丁目1-16

調査面積 0.4m<sup>2</sup>

調査期間 平成18年9月28日(1日間)

担当者 小野本 敦

調査概要

調査区は、国分寺崖線に東南部から入る小谷縁辺の武蔵野段丘上に立地する。本調査区の東側の第5次調査では、旧石器時代の石器集中地点、礫群、土坑、縄文時代の陥穴、歴史時代の地下式坑が検出されている(参考文献)。

調査の対象は、排水管埋設の影響がある範囲について発掘調査を行った。調査区の大部分は擁壁工事の際に攪乱を受けていた。現地表面下約60cmで立川ロームV層を確認したが、遺構は検出されなかった。

出土遺物

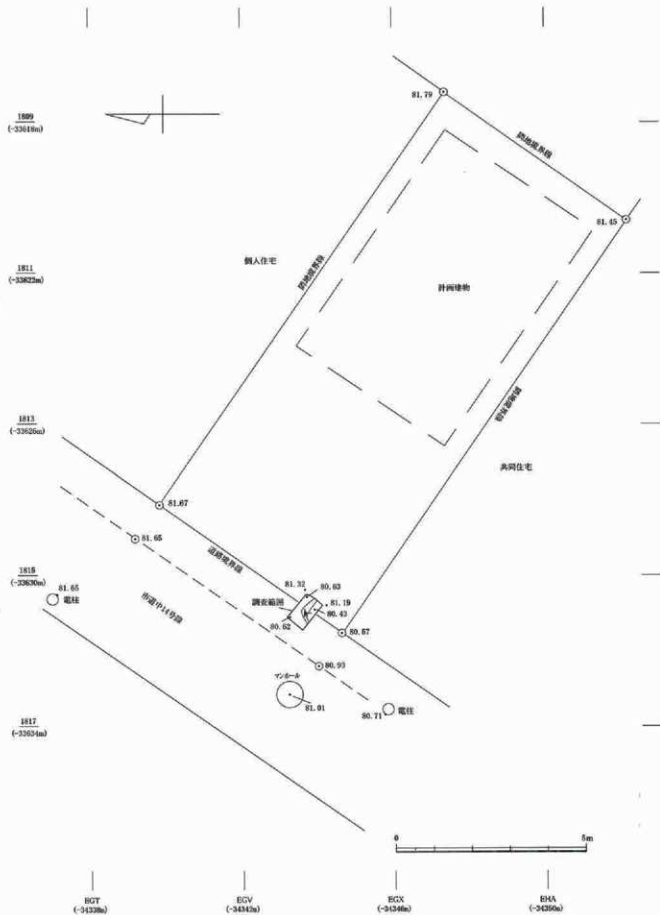
なし

(参考文献) 上飯領久1999『多摩蘭坂遺跡Ⅲ—都宮内藤一丁目第4田地建設に伴う事前調査—』国分寺市遺跡調査会



調査区全景 (西から)

平成18年度 各調査の概要



⑬地区 第11次調査区全体図

## ④殿ヶ谷戸遺跡 第5次調査 個人宅造地

所在地 南町2丁目10-23

調査面積 5.69㎡

調査期間 平成18年10月5日～10月13日（5日間）

担当者 立川 明子

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上の殿ヶ谷戸遺跡内北方の残丘斜面に位置する。調査の対象は、排水管路設とカーポート設置により遺構に影響が及ぶ範囲について発掘調査を行った。A・Bトレンチを設定し、そのうちAトレンチから遺構を検出した。

Aトレンチは、排水管・ガス管等により著しい攪乱を受けていたが、調査区地表面下約40cmで地山（Ⅱ層：黒褐色土）を部分的に確認した。攪乱を除去し、Ⅲb・Ⅲc層で歴史時代と縄文時代の遺構確認を行った。

縄文時代の遺構は土坑2基（SK1J・2J）と小穴3基（PJ-1～3）を検出した。土坑はいずれも不整形な掘り方を呈していることや、土層の断面観察で覆土が地山と類似し浮遊したロームブロックを多く含んでいること、レンズ状の堆積をしていないこと等の特徴から、風倒木と判断した。小穴3基は平面形や深度に共通点はなく、遺構としての関連はないと考えられる。

Bトレンチは、工事が及ぶ深度まで掘削を行ったところ、調査区全体が攪乱されており、西壁セクションで調査区地表下約40cmからⅡ層を部分的に確認した。

## 出土遺物

遺構に伴う遺物は、SK1Jから縄文時代の土器4点、石器1点、礫1点、SK2Jから縄文土器7点、礫3点、PJ-1から縄文土器2点、PJ-3から礫1点、P-1から縄文土器3点、礫3点が出土した。遺構外ではⅢb層確認面から縄文土器20点、黒曜石1点、礫4点、表土から縄文土器10点、攪乱から縄文土器6点が出土した。

図面・図版16はSK1Jから出土した打製石斧である。敲打により刃を作出している。

図面・図版14、15はⅢb層確認面から出土した縄文土器深鉢である。半截竹管による沈線で区画及びモチーフを描き出している。加曾利式に比定できる。



Aトレンチ縄文時代全景（南から）

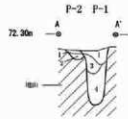
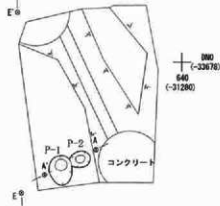


Bトレンチ確認全景（北から）

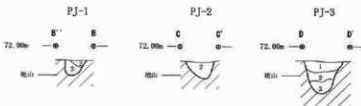
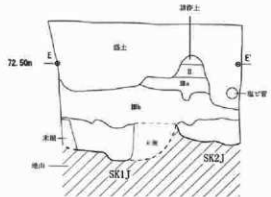
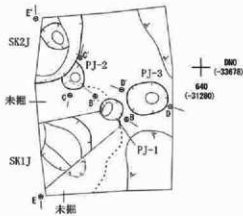
平成18年度 各調査の概要



④地区 第5次調査区全体図



- P-1, 2
- 1 暗褐色土 しまりやや弱く、粘性強い ロームブロック少量
  - 2 暗褐色土 1層より明るい しまり、粘性やや強い ロームブロックやや多量
  - 3 暗褐色土 しまり、粘性強い ロームブロック多量
  - 4 黄褐色土 しまり、粘性強い ローム土が主体 赤色スコリア少量



- PJ-1~3
- 1 暗褐色土 しまりやや弱く、粘性強い ロームブロック少量
  - 2 暗褐色土 1層より明るい しまり、粘性やや強い ロームブロックやや多量
  - 3 黄褐色土 しまり、粘性強い ローム土が主体 赤色スコリア少量



第5次調査 P-1・2、SK1J・2J土坑、PJ-1~3小穴 実測図



## ⑮殿ヶ谷戸遺跡 第6・8次調査 確認調査・個人宅造地

所在地	南町2丁目282-15、16	調査面積	60.00㎡
調査期間	平成19年2月5日～2月8日(4日間)	担当者	小野本 敦
	平成19年3月9日～3月26日(11日間)		

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上に位置し、殿ヶ谷戸谷と本多谷に挟まれた残丘上に立地する。調査の対象は、共同住宅の地下室建設により遺構に影響が及ぶ範囲について、確認調査(第6次)を行ったところ、遺構が検出されたため本調査に移行した(第7・8次)。当該建設工事は共同住宅兼個人宅であるため、個人宅造地分を補助金事業として、共同住宅分を原因者負担として発掘調査を行った。本報告は、確認調査及び個人宅造地の調査成果をまとめたものである。

遺構は縄文時代の住居1軒(SI3J)・集石土坑1基(SS1)・小穴32基(PJ-1～32)が検出されたほか、旧石器時代の試掘坑からナイフ形石器が出土した。

調査区では地表下60cmでⅢb層が検出されたが、Ⅲb層中では縄文時代の遺構覆土を確認しにくいため、地表下80～90cmのⅢc層まで掘削し、遺構確認を行った。

SI3Jは、平面形は円形である。規模は直径4.3m、壁高は約50cm、断面は皿状を呈し、床面は平坦である。堆積土層は黒褐色土が主体である。床面直上にはしまりのつよい暗褐色土層が堆積しており、一時期の生活面として使用された可能性も考えられる。床面はIV層中の地床であり、住居中央部に強硬化面が見られる。住居内には小穴が12基検出された。主柱穴は4基と考えられ、P-1～4とP-5～8がそれぞれ規則的に配置され規模もほぼ等しいことから、同じ場所建て替えが行われた可能性がある。P-12は位置的に炉穴である可能性が考えられるが、掘り込みが浅く、周辺から焼土が検出されていないため不明である。

SS1は、直径80cmの範囲内に礫215点が集積されている。総礫重量8206g、礫平均重量38gである。その内138点が被熱していた。石材は半数以上が砂岩で、その他チャート・礫岩・ホルンフェルス・片岩が見られた。土器は出土していない。集石は土坑の上面に集中して検出された。平面形は楕円形である。規模は上面で長径1.0m、短径0.8m、確認面から深さは45cmである。断面は掘り鉢状を呈する。

小穴は確認面からの深さ50cm以上のものが2基、30cm以上のものが7基、他23基は30cm以下の小規模なものである。PJ-4は、平面が楕円形を呈し、深さは確認面から55cmである。土層断面に黒褐色土が主体である柱痕状の層と暗褐色土の埋土状の層が観察され、柱穴である可能性が考えられる。PJ-28は、円形を呈し、深さが60cmである。覆土は黒褐色土層が主体であるが、柱痕状の立ち上がりは観察できず、PJ-4との関連は不明である。確認面からの深さが30cm以上の小穴では、PJ-6とPJ-17に柱痕状の立ち上がりが観察された。柱穴と考えられる小穴の配置に規則性は見られず、各小穴の性格は不明である。その他の小穴の配置にも規則性は見られず、性格は不明である。

旧石器時代の調査は3m×3mの試掘坑をV層中層まで掘り下げた。遺構は検出されなかったが、IV層中層からナイフ形石器1点が出土した(図面・図版18)。

## 出土遺物

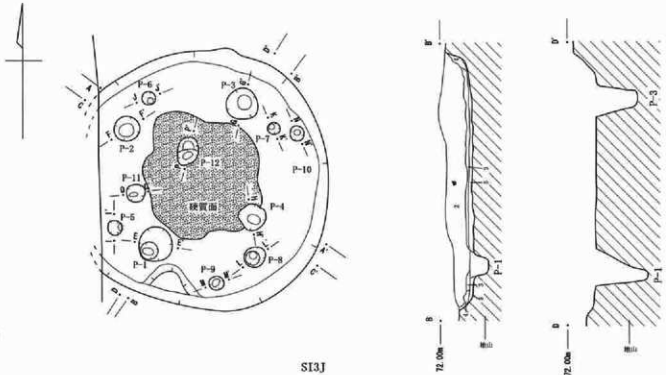
遺構に伴うものは、上述したようにSS1から礫215点が出土した。その他の遺構は、SI3Jから縄文土器98点、石器8点、礫1点、PJ-4から縄文土器2点、PJ-8から縄文土器2点、礫1点、PJ-31から縄文土器2点が出土した。遺構外では、Ⅲb層確認面から縄文土器14点、石器2点、礫1点、表土から縄文土器66点、礫3点、中近世陶器1点が出土している。

図面・図版19～23はSI3Jから出土した縄文土器である。19は田戸下層1～上層1式、20は勝坂式、21～23は加曾利E2～4式に比定される。19は口縁直下に半截竹管により横位の沈線を描き出している。20は降起帯で楕円形区画を描き、区画内に単沈線列を施文する。21は口縁直下に低い隆起帯を貼り付けて楕円形区画を描き、区画内に羽状縄文を横位に施文している。

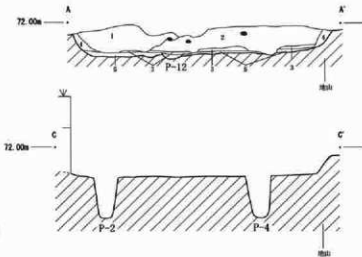
図面・図版24はSI3Jから、図面・図版17は表土から出土した打製石斧である。図面・図版25はSI3Jから出土した磨石である。全面磨耗しており、3箇所に潰痕が見られるため蔵石との複合石器と考えられる。図面・図版26～29はSI3Jから出土した剥片である。図面・図版30、31はSI3Jから出土した不明石器である。



⑮地区 第8次調査区全体図



SI3J

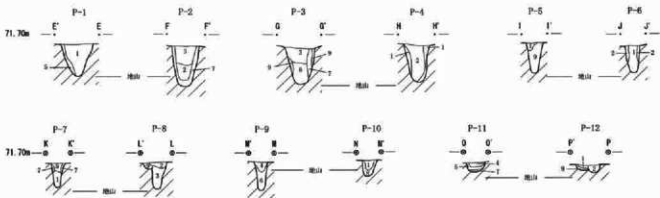


SI3J

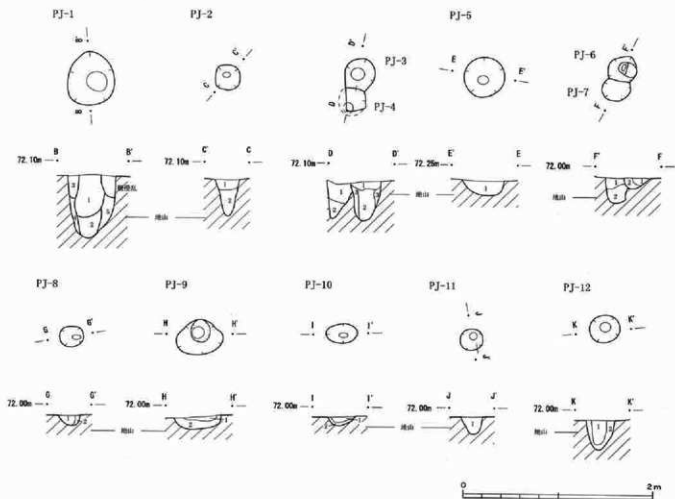
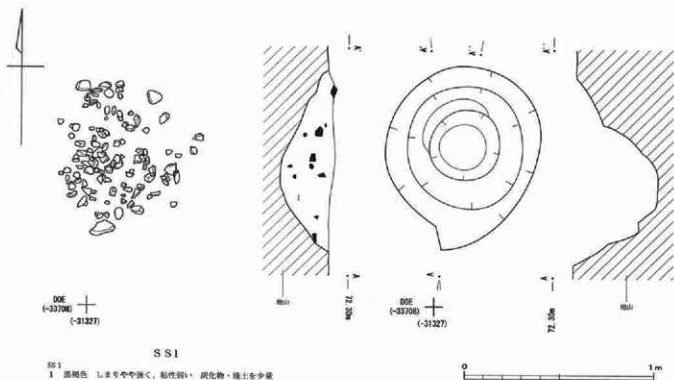
- |        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色土 | しまりやや強く、粘性弱い 赤色スコリア・ローム粒子やや多量 |
| 2 黒褐色土 | しまり、粘性やや強い 赤色スコリア・ローム粒子やや多量   |
| 3 黒褐色土 | しまり強く、粘性強い 赤色スコリア・ローム粒子やや多量   |
| 4 緑褐色土 | しまり、粘性やや強い ローム土が主体 赤色スコリア少量   |
| 5 緑褐色土 | しまり強く、粘性強い ローム土が主体 赤色スコリア多量   |
- 断面

P-1~12

- |        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色土 | しまり、粘性弱い 赤色スコリア・ローム粒子多量       |
| 2 黒褐色土 | しまり弱く、粘性弱い 赤色スコリア少量、ローム粒子やや多量 |
| 3 黒褐色土 | しまりやや強く、粘性強い 赤色スコリア・ローム粒子やや多量 |
| 4 黒褐色土 | しまりやや強く、粘性強い 赤色スコリア・ローム粒子やや多量 |
| 5 黒褐色土 | しまり、粘性やや強い ローム粒子・赤色スコリア少量     |
| 6 黒褐色土 | しまり弱く、粘性強い ロームブロックやや多量        |
| 7 緑褐色土 | しまりやや強く、粘性強い ロームブロック多量        |
| 8 緑褐色土 | しまり強く、粘性やや強い ロームブロックやや多量      |
| 9 褐色土  | しまり、粘性やや強い ローム土が主体            |



第8次調査 SI3J住居、SI3J住居小穴P-1~12 実測図

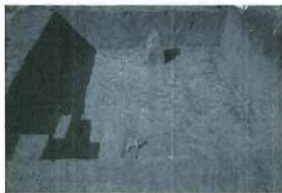


第8次調査 SSI集石土坑、PJ-1～12小穴 実測図





縄文時代全景 (南から)



旧石器時代試掘坑全景 (南から)



SI3J竪穴住居土層断面 (北から)



SI3J竪穴住居全景 (北から)



SS1集石土坑全景 (西から)



SS1集石土坑掘り方全景 (西から)



PJ-4小穴土層断面 (東から)



PJ-6小穴土層断面 (北から)

## ⑮恋ヶ窪東遺跡 第17次調査 個人宅造地

所在地 本町4丁目2874-5

調査面積 9.76㎡

調査期間 平成18年7月20日～7月27日（5日間）

担当者 小野本 敦

## 調査概要

調査区は、恋ヶ窪東遺跡の範囲のほぼ中央に位置する。調査の対象は、排水管埋設により遺構に影響が及ぶ可能性のある範囲について発掘調査を行った。

地山であるⅢc層で縄文時代の遺構確認を行った。調査区内は北側に大きく攪乱を受けており、東側で縄文時代の小穴が1基検出された以外遺構は検出されなかった。また調査区南東隅にサブトレンチを設けてⅣ層まで掘り下げ、堆積状況を確認した。

## 出土遺物

遺構に伴う遺物は出土していない。Ⅲb層確認面から石器2点、表土から縄文土器15点、石器1点、礫5点、中近世陶器1点が出土した。

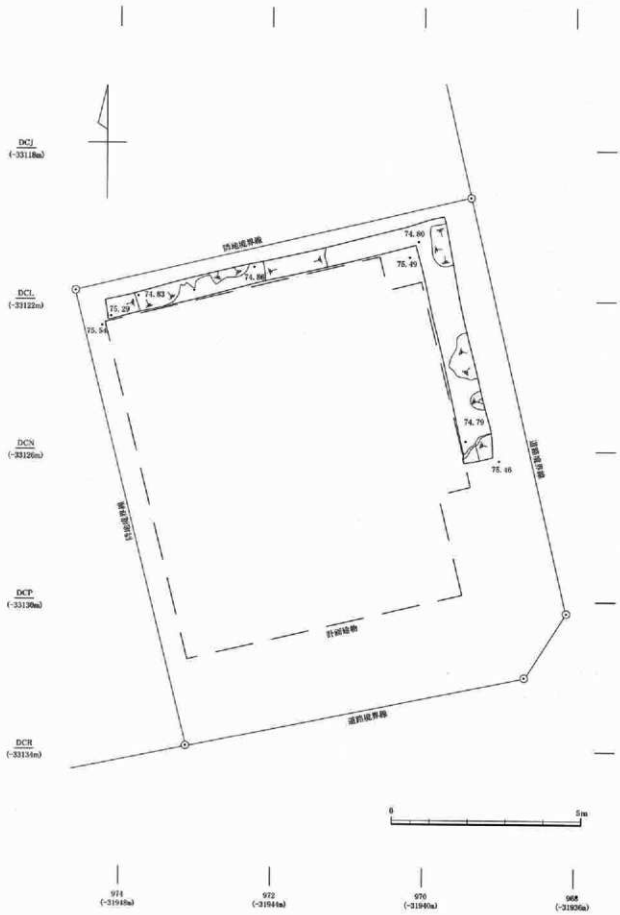
図面・図版32、33はⅢb層確認面から出土した。33は打製石斧である。表裏両面を敲打して平坦な基部を作出している。32は尖頭器である。表面は自然面で、剥離により平坦にし、敲打によって刃部を作出している。図面・図版34は表土から出土した磨石で、磨面は三面形成されており、断面形は三角形状を呈している。



調査区全景北東部（東から）



調査区全景北部（西から）



⑬地区 第17次調査区全体図



付編 昭和50・60年代の小規模調査概要

昭和60年代調査地区一覧

第14表 武蔵国分寺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
①	10・19	個人宅造地 第231次調査	東元町4丁目8 -12	4.71	-	96.37	S60.5.23~S60.5.25 (3日間)	検出遺構なし	0
②	19	個人宅造地 第232次調査	東元町3丁目 1398	14.20	79.62	238.24	S60.5.27~S60.5.31 (4日間)	検出遺構なし	0
③	19	個人宅造地 第237次調査	東元町4丁目12 -17	12.80	-	202.16	S60.9.2~S60.9.9 (6日間)	検出遺構なし	0
④	19	個人宅造地 第238次調査	東元町4丁目4 -10	26.00	-	269.91	S60.9.25~S60.10.1 (5日間)	検出遺構なし	0
⑤	10・19	個人宅造地 第239次調査	東元町4丁目8	12.00	29.65	105.39	S60.9.10~S60.9.17 (4日間)	検出遺構なし	0
⑥	19	個人宅造地 第241次調査	東元町3丁目34 -2	20.60	56.70	132.99	S60.11.19~S60.11.22 (4日間)	検出遺構なし	0
⑦	19	個人宅造地 第246次調査	東元町4丁目3- 10	13.12	-	171.00	S61.2.17~S61.2.26 (7日間)	検出遺構なし	0
⑧	19	個人宅造地 第254次調査	西元町2丁目 2548-9	22.80	72.82	188.53	S61.5.9~S61.6.3 (15日間)	検出遺構なし	0
⑨	10・19	個人宅造地 第260次調査	東元町4丁目7 -9	10.00	30.15	81.09	S61.7.28~S61.8.6 (7日間)	検出遺構なし	0
⑩	19	個人宅造地 第262次調査	西元町3丁目 1915-19	12.90	82.38	151.63	S61.8.27~S61.9.9 (8日間)	検出遺構なし	0
⑪	19	個人宅造地 第269次調査	東元町3丁目10 -11	38.00	105.50	320.97	S61.11.21~S60.12.4 (6日間)	検出遺構なし	0
⑫	19	個人宅造地 第270次調査	東元町3丁目10 -11	34.50	168.04	509.67	S61.12.1~S61.12.10 (7日間)	検出遺構なし	0
⑬	19	個人宅造地 第287次調査	東元町3丁目 2404-19	19.20	92.23	246.44	S62.5.27~S62.6.2 (9日間)	検出遺構なし	0
⑭	19	個人宅造地 第310次調査	西元町4丁目 2309-64	5.00	70.95	106.45	S63.8.17~S63.8.23 (4.5日間)	検出遺構なし	0
面積合計				245.80	788.04	2,820.84		箱数合計	0

昭和50年代調査地区一覧

第15表 窓ヶ窪遺跡他 確認調査

地区番号	遺跡番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
⑮	2	遺跡確認 第9次調査	西窓ヶ窪1丁目 187	60.00	-	2,310.00	S54.2.14~S54.3.20 (23日間)	検出遺構なし	0
⑯	43	遺跡確認 第1次調査	北町5丁目17- 20	210.00	-	4,934.00	S53.11.21~S53.12.6 (10日間)	検出遺構なし	0
⑰	44	遺跡確認 第1次調査	北町2丁目25	204.00	-	7,285.00	S55.2.18~S55.3.14 (15日間)	検出遺構なし	0
面積合計				270.00	-	14,529.00		箱数合計	0



①武蔵国分寺跡 第231次調査 個人宅遺地

所在地 東元町4丁目8-12

調査面積 4.71m<sup>2</sup>

調査期間 昭和60年5月23日～5月25日（3日間） 担当者 上村 昌男

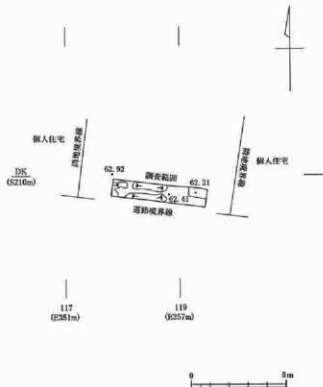
調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝の約80m西、南辺区画溝の約90m北に位置し、建物・住居の検出が稀少であることから武蔵国分寺苑院・花園院に比定されている地域である。周辺は本調査区より西の調査区からは溝、掘立柱建物、竪穴住居等が検出されているが、東の調査区からは遺構の検出数が少なくなり、本調査区以東は、より土地利用が稀少な地域であったと考えられる。

調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



調査区全景（西から）



①地区 第231次調査区全体図

②武蔵国分寺跡 第232次調査 個人宅遺地

所在地 東元町3丁目1398

調査面積 14.20㎡

調査期間 昭和60年5月27日～5月31日(4日間)

担当者 上村 昌男

調査概要

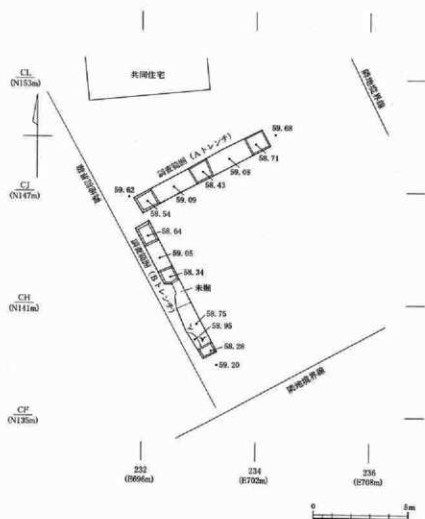
当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約260m東に位置する。立川段丘上で、調査区南側には野川の支流が走行している。調査事例が稀少な地域であるが、周辺の調査区からは歴史時代、縄文時代の遺構が検出されている。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景 (東から)



Bトレンチ全景 (南から)



②地区 第232次調査区全体図

## ③武蔵国分寺跡 第237次調査 個人宅造地

所在地 東元町4丁目12-17

調査面積 12.80㎡

調査期間 昭和60年9月2日～9月9日(6日間)

担当者 上村 昌男

## 調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約190m東の立川段丘上に位置する。調査事例が稀少な地域であるが、周辺の調査区からは歴史時代の遺構が検出されている。

調査は排水管理設工によって影響を受ける範囲にトレンチを3箇所設定し、本調査を実施した。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



A トレンチ全景 (東から)



B トレンチ全景 (南から)



C トレンチ全景 (東から)



③地区 第237次調査区全体図

④武蔵国分寺跡 第238次調査 個人宅造地

所在地 東元町4丁目4-10

調査面積 26.00m<sup>2</sup>

調査期間 昭和60年9月25日～10月1日(5日間)

担当者 上村 昌男

調査概要

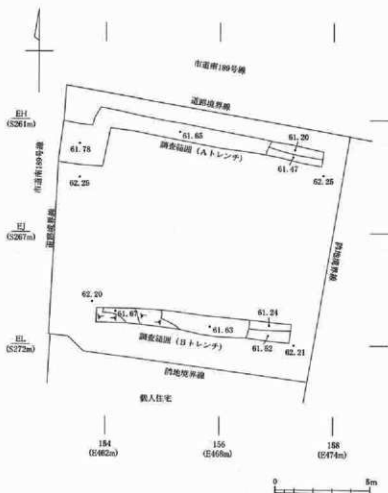
当地区は、僧寺寺院地区画溝の南東隅部分から北に約40m、東に約25mに位置し、寺院地外であるが武蔵国分寺の南東地域にあたる。調査は排水管等の埋設により影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景 (西から)



Bトレンチ全景 (西から)



④地区 第238次調査区全体図

⑤武蔵国分寺跡 第239次調査 個人宅遺地

所在地 東元町4丁目8

調査面積 12.00㎡

調査期間 昭和60年9月10日～9月17日（4日間）

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺寺院地区画溝の南東隅部分から南に約35m、東に約10mに位置し、寺院地外であるが武蔵国分寺の南東地域にあたり、④地区に隣接している。調査は排水管等の埋設により影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



A トレンチ全景（東から）



B トレンチ西側全景（東から）



B トレンチ東側全景（東から）



⑤地区 第239次調査区全体図

⑥武蔵国分寺跡 第241次調査 個人宅造地

所在地 東元町3丁目34-2

調査面積 20.60㎡

調査期間 昭和60年11月19日～11月22日（4日間）

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺院地北辺区画溝から約150m北の武蔵野段丘上で、野川本流によって開削された恋ヶ窪谷に東面した谷壁緩斜面に位置する。縄文時代早期～後期の散布地とされている多喜窪遺跡D地点にも含まれる。昭和30年に敷石住居が発見された土器採集地点が当地区の約40m南に位置している。

調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



A トレンチ全景（東から）



B トレンチ全景（南から）



⑥地区 第241次調査区全体図



⑦武蔵国分寺跡 第246次調査 個人宅造地

所在地 東元町4丁目3-10

調査面積 13.12㎡

調査期間 昭和61年2月17日～2月26日（7日間）

担当者 上村 昌男

調査概要

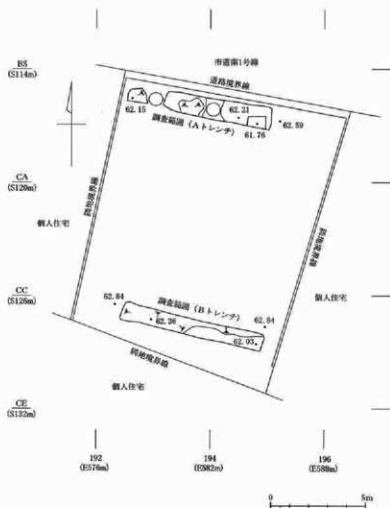
当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約145m東で寺院地外の東方に位置する。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



A トレンチ全景（東から）



B トレンチ全景（西から）



⑦地区 第246次調査区全体図

⑧武蔵国分寺跡 第254次調査 個人宅遺地

所在地 西元町2丁目2548-9

調査面積 22.80㎡

調査期間 昭和61年5月9日～6月3日(15日間)

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺院地西辺の区画である東山道武蔵路から西に約38mで、武蔵野段丘縁辺の国分寺崖線の斜面中に立地する。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



調査区全景 (北から)



調査区全景 (西から)



⑧地区 第254次調査区全体図

⑨武蔵国分寺跡 第260次調査 個人宅造地

所在地 東元町4丁目7-9

調査面積 10.00㎡

調査期間 昭和61年7月28日～8月6日（7日間）

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約85m、南辺区画溝から約85mの武蔵国分寺寺院地南東地域にあたる。調査は排水管理設工によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景（西から）



Bトレンチ全景（西から）



⑨地区 第260次調査区全体図

⑩武蔵国分寺跡 第262次調査 個人宅造地

所在地 西元町3丁目1915-19

調査面積 12.90㎡

調査期間 昭和61年8月27日～9月9日(8日間)

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約116m西、南辺区画溝から約50m北に位置し、武蔵国分寺寺院地南東地域にあたる。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景 (南から)



Aトレンチ全景 (東から)



Bトレンチ全景 (東から)



⑩地区 第262次調査区全体図

①武蔵国分寺跡 第269次調査 個人宅造地

所在地 東元町3丁目10-11

調査面積 38.00㎡

調査期間 昭和61年11月21日～12月4日（6日間）

担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約80m東に位置し、武蔵国分寺寺院地外の北東地域にあたる。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



南北トレンチ全景（南から）



東西トレンチ全景（東から）



①地区 第269次調査区全体図

## ⑫武蔵国分寺跡 第270次調査 個人宅遺地

所在地 東元町3丁目10-11

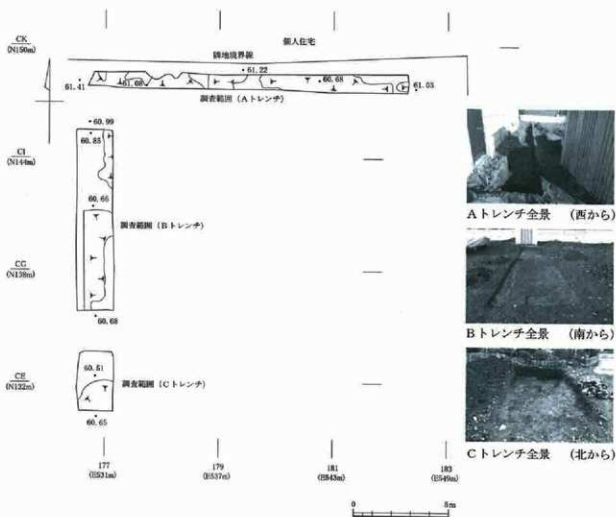
調査面積 34.50㎡

調査期間 昭和61年12月1日～12月10日(7日間)

担当者 上村 昌男

## 調査概要

当地区は、僧寺寺院地東辺区画溝から約100m東に位置し、武蔵国分寺寺院地外の北東地域にあたる。調査は排水管理設工によって影響を受ける範囲にトレンチを3箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



⑫地区 第270次調査区全体図

⑬武蔵国分寺跡 第287次調査 個人宅造地

所在地 東元町3丁目2404-19

調査面積 19.20㎡

調査期間 昭和62年5月27日～6月2日(9日間) 担当者 上村 昌男

調査概要

当地区は、僧寺寺院地北辺区画溝から約132m北の武蔵野段丘上で、恋ヶ窪谷に面した台地の縁辺に位置する。縄文時代早期～後期にかけての遺物散布地とされる多喜窪遺跡D地点にも含まれる。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを3箇所設定し本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景 (南から)



Bトレンチ全景 (南から)



Cトレンチ全景 (南から)



⑬地区 第287次調査区全体図

⑭武蔵国分寺跡 第310次調査 個人宅造地

所在地 西元町4丁目2300-64

調査面積 5.00㎡

調査期間 昭和63年8月17日～8月23日(4.5日間)

担当者 上敷領 久

調査概要

当地区は、尼寺伽藍地南西地域にあたり、尼寺中樞部西辺区画溝の比定地である。調査は排水管理設工事によって影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し本調査を実施した。

本調査区は尼寺の中樞部西辺区画溝が検出される可能性が想定されたが、調査区は攪乱が著しく遺構・遺物の検出、出土はなかった。



Aトレンチ全景 (東から)



Bトレンチ全景 (西から)



⑭地区 第310次調査区全体図





昭和50年代調査地区位置図

⑮恋ヶ窪遺跡 第9次調査 確認調査

所在地 西恋ヶ窪1丁目187

調査面積 60.00㎡

調査期間 昭和54年2月14日～3月20日(23日間)

担当者 広瀬 昭弘

調査概要

当地区は、武蔵野段丘上、恋ヶ窪谷斜面の東側に位置している。調査は恋ヶ窪遺跡西北地域の遺構確認及び本遺跡における旧石器時代の遺構の有無を確認することを目的とし、確認調査を行った。

遺構は、新しい時代に属すると考えられる溝状遺構が検出された。縄文時代の遺構は検出されなかった。旧石器時代の確認は、調査区北側9mをV層上部まで、南側6mをV層下部まで発掘して確認を行ったが旧石器時代の遺構・遺物は認められなかった。恋ヶ窪遺跡の西北域は本調査区まで広がっていなかったと考えられる。



旧石器時代炭化物出土状況 (南から)



調査区全景(縄文時代) (南から)



⑮地区 第9次調査区全体図

## ⑬No. 43遺跡 第1次調査 確認調査

所在地 北町5丁目17-20

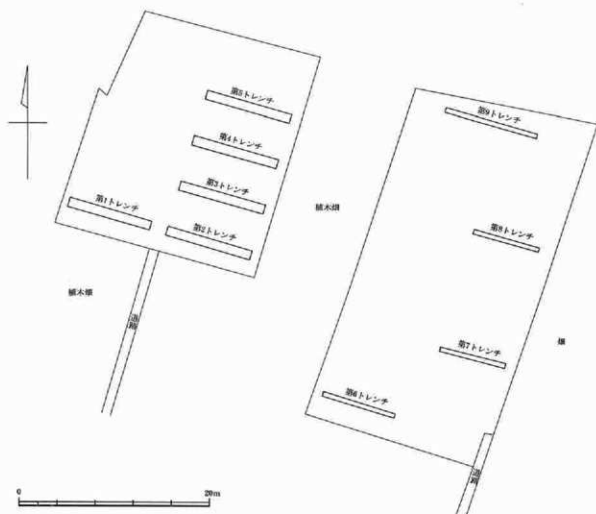
調査面積 210.00㎡

調査期間 昭和58年11月21日～12月6日 (10日間)

担当者 広瀬 昭弘

## 調査概要

当地区は、昭和51年に実施された遺跡分布調査によって確認された縄文時代の散布地である。調査はトレンチを9箇所設定し、確認調査を行った。第1・2トレンチで南北溝を2条検出したが、いずれも耕作土中から掘り込まれており、近年の所産と考えられる。本調査区周辺においては遺構の存在が稀薄であったと考えられる。



⑬地区 第1次調査区全体図

①No. 44遺跡 第1次調査 確認調査

所在地 北町2丁目25

調査面積 204.00㎡

調査期間 昭和55年2月18日～3月14日 (15日間)

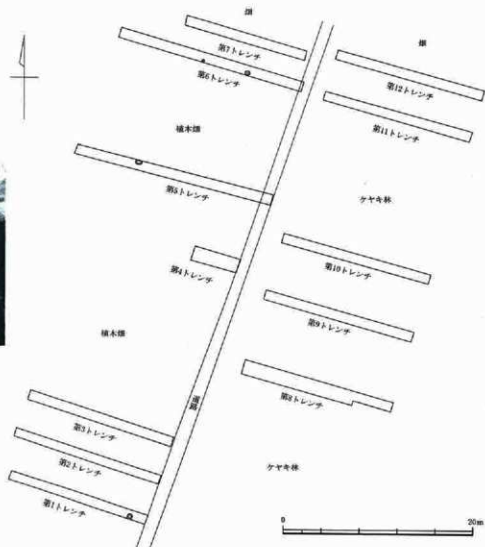
担当者 広瀬 昭弘

調査概要

当地区は、昭和51年に実施された遺跡分布調査によって確認された平安時代の散布地である。調査はトレンチを12箇所設定し、確認調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。本調査区周辺は遺構の存在が稀薄な地域であると考えられる。



第1トレンチ全景



①地区 第1次調査区全体図

第16表 遺物観察表(1)

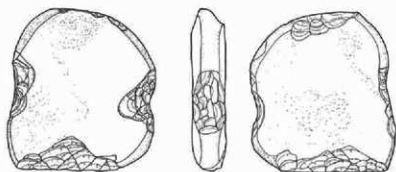
歴史土器									
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	器種	遺存状態	口径 器高 底径 (cm)	色調	胎土	成形・整形・調整	備考	
5 614 JF01	SD404	土師器 環	口縁部 ~ 底部	(11.0) (3.4) —	褐色	緻密、雲母微量 含む	粘土紐巻き上げ成形。体部 外面下半~底部へテ削り	体部外面下半に 指痕が明確に残 存	
6 614 JF02	SD404	土師器 環	口縁部 ~ 底部	(9.4) 3.4 (3.6)	褐色	緻密、雲母微量 含む	粘土紐巻き上げ成形。体部 外面下半~底部へテ削り	体部外面下半に 指痕が明確に残 存	
瓦									
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	器種	先端 広端 (cm)	全長 厚さ (cm)	素材	布目	取き	断面 特徴	備考
4 610 KD01	攪乱	女瓦	—	(16.0) 1.5	—	21×25	隅目 1.11本	側面 テ削り	凸面粘土板1枚作り? 縦貫。粗砂粒 やや多く含む。暗赤灰色~灰色

縄文土器									
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	器種	遺存状態	口径 器高 底径 (cm)	色調	胎土	文様の施文行程等	時期	
7 614 JF01	Ⅲb層	深鉢	口縁部	(4.3)	淡褐色	砂・雲母少量含む	外面: 単節縄文LRを縦位に施文	加曾利 E3式	
8 K2-81 JF02	表土	深鉢	口縁部	(5.0)	淡褐色	白色粘土やや多 量、雲母少量含 む	外面: 隆起帯貼り付けにより口縁部を 区画	勝飯3式	
9 K2-81 JF04	表土	深鉢	胴部	(4.6)	暗赤 褐色	白色粒子・雲母少 量含む	外面: 断面三角形の隆起帯を貼り付 け	勝飯2式	
10 K2-81 JF01	表土	深鉢	口縁部	(4.8)	灰褐色	砂・白色粒少量、 雲母微量に含む	外面: 単節縄文LRを横位に施文。断 面円形状の隆起帯を横位に貼り付け	加曾利 E3式	
11 K2-81 JF02	表土	深鉢	胴部	(4.2)	赤褐色	白色粒子・雲母を 多量に含む	外面: 隆起帯を横位に波状に貼り付け	曾利式	
14 K21-8 JF01	Ⅲb層	深鉢	口縁部	(4.0)	橙褐色	白色粒子やや多 く含む	外面: 単節縄文LRを横位に施文	加曾利 E3式	
15 K21-5 JF02	Ⅲb層	深鉢	底部	(3.6) 3.0	淡褐色	白色粒子多量含 む、雲母少量含 む	外面: 沈線区画内を単節縄文LRを縦 位に施文	加曾利 E3式	
19 K21-8 JF01	SI3J	深鉢	口縁部	(2.7)	暗赤 褐色	白色粒子多量含 む、雲母微量に含 む	外面: 半横竹管により沈線を抽出	田戸 下層~ 上層式	
20 K21-8 JF01	SI3J	深鉢	胴部	(5.9)	明褐色	金雲母・白色粒子 多量に含む	外面: 隆起帯により楕円形区画。区画 内は単沈線列	勝飯3式	
21 K21-8 JF04	SI3J	深鉢	口縁部	(4.4)	赤褐色	白色粒子少量含 む	外面: 隆起帯による楕円形区画内 に羽状縄文を横位に施文	加曾利 E3~4式	
22 K21-8 JF09	SI3J	深鉢	底部	(3.5) 2.8	橙褐色	白色粒子・雲母少 量含む	外面: 単節縄文LRを横位に施文	加曾利 E2式	
23 K21-8 JF07	SI3J	深鉢	胴部	(6.9)	橙褐色	白色粒子・雲母少 量含む	外面: 単節縄文LRを縦位に施文	加曾利 E2式	
尖頭器									
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備考
32 K57-17_AA01	Ⅲb層	尖頭器	完形	ホルン フェルス	9.3	5.0	0.9	47.1	片面自然面。敲打により平面面作出 している。両端に刃部調整

第17表 遺物観察表(2)

石 鏃													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考				
2 609 AB01		PJ-1	石鏃	未製品	黒曜石	1.8	1.7	0.5	1.1	片側縁に調整が施されている。打痕を残している。			
打製石斧													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	刃部 形態	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考			
12 K2-81 AG01		表土	打製 石斧	基部 断片	泥岩	—	(9.9)	4.6	1.4	92.6	両側縁敲打により基部作出		
13 K2-81 AG02		表土	打製 石斧	刃部 断片	砂岩	凸刃	(9.2)	4.2	1.7	84.1	両側縁押しして刃部作出		
16 K21-5 AG01		SK1J	打製 石斧	刃部 断片	砂岩	凹刃	(7.7)	5.8	1.6	95.0	両側縁押しして刃部作出		
17 K21-6 AG01		表土	打製 石斧	完形	礫岩	凹刃	13.3	5.7	1.8	196.4	両側縁押しして刃部作出		
24 K21-8 AG02		SI3J	打製 石斧	刃部 断片	礫岩	凹刃	(8.7)	4.5	1.4	68.8	両面を敲打して刃部作出		
33 K57-17 AG01		IIIb層	打製 石斧	基部 断片	ホーン フェルス	—	8.7	6.1	1.3	87.0	両面を敲打して平坦な基部を作出		
磨製石斧													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	刃部 加工	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考			
3 609 AI01		IIIb層	磨製 石斧	完形	砂岩	凹刃	10.0	6.0	3.0	257.2	敲打により片刃状に刃部を成形。研磨による調整なし。		
磨 石													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	成形加工	整形加工	素材 形態	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備考	
25 K21-8 AI01		SI3J	磨石+ 敲石	完形	礫岩	なし	なし	楕円礫	9.5	9.5	6.0	715.0	両側縁に敲打
34 K57-17 AI01		表土	磨石	完形	砂岩	なし	なし	楕円礫	7.7	8.2	3.0	234.6	全面磨製
抉入磨石													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	成形加工	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考			
1 609 AM01		PJ-1	抉入 磨石	完形	礫岩	凹刃	12.7	11.6	2.7	680.0	両面研磨。両縁に剥離と敲打による抉り部を作出		
剥 片													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考				
26 K21-8 AT02		SI3J	剥片	完形	珪岩	2.8	2.3	0.4	2.7				
27 K21-8 AT03		SI3J	剥片	完形	珪岩	2.5	2.0	0.9	4.6				
28 K21-8 AT04		SI3J	剥片	完形	珪岩	2.2	1.7	0.5	2.3				
29 K21-8 AT03-04		SI3J	剥片	完形	珪岩	2.7	3.4	0.9	6.9				
不明石器													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考				
30 K21-8 AZ01		SI3J	不明	完形	理質頁岩	7.2	4.0	1.4	31.1				
31 K21-8 AZ02		SI3J	石核未 製品?	完形	珪岩	4.6	3.3	0.9	13.1	裏面に剥離面。敲打により刃部?を作出			
ナイフ形石器													
図面・図版番号 遺物番号	出土位置	種別	遺存状態	石材	打面	稜面	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備 考		
18 K21-8 FA01		旧石器 状掘坑	ナイフ 形石器	完形	礫岩	なし	なし	4.0	1.4	0.3	2.4	短長両片素材の2側縁加工	

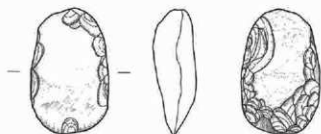
遺物図面(1)



1 609 AM01  
PJ-1



2 609 AB01  
PJ-1



3 609 AH01  
遺構外



4 610 KD01  
遺構外



5 614 PH01  
SD404



6 614 PH02  
SD404



7 614 JF01  
遺構外



8 K2-81 JE02  
遺構外



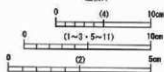
9 K2-81 JE04  
遺構外



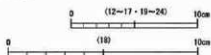
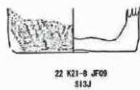
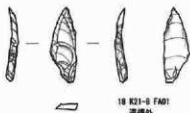
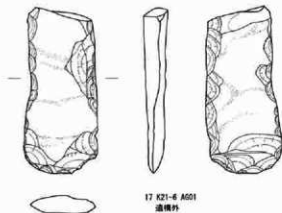
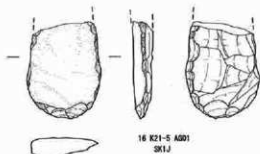
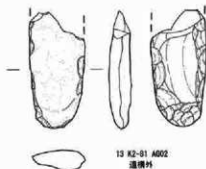
10 K2-81 JF01  
遺構外



11 K2-81 JF02  
遺構外

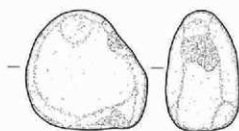


遺物図面(2)

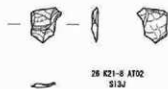




遺物図面(3)



25 K21-8 AL01  
S13J



26 K21-8 AT02  
S13J



27 K21-8 AT03  
S13J



28 K21-8 AT04  
S13J



29 AT03 - AT04 (融合)



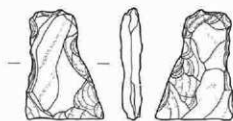
30 K21-8 AZ01  
S13J



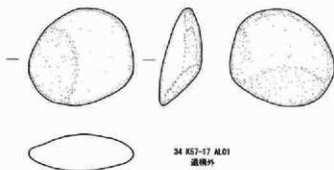
31 K21-8 AZ02  
S13J



32 K57-17 AD01  
遺構外



33 K57-17 AD01  
遺構外



34 K57-17 AL01  
遺構外



遺物図版(1)



1 609 AM01  
PJ-1



2 609 AB01  
PJ-1



3 609 AH01  
遺構外



4 610 KD01  
遺構外



5 614 PH01  
SD404



6 614 PH02  
SD404



7 614 JF01  
遺構外



8 K2-81 JE02  
遺構外



9 K2-81 JE04  
遺構外



10 K2-81 JF01  
遺構外



11 K2-81 JF02  
遺構外

遺物図版(2)



12 K2-81 AG01  
遺構外



13 K2-81 AG02  
遺構外



14 K21-5 JF01  
遺構外



15 K21-5 JF02  
遺構外



16 K21-5 AG01  
SK1J



17 K21-6 AG01  
遺構外



18 K21-8 FA01  
遺構外



19 K21-8 JB01  
SI3J



20 K21-8 JE01  
SI3J



21 K21-8 JF04  
SI3J



22 K21-8 JF09  
SI3J



23 K21-8 JF07  
SI3J



24 K21-8 AG02  
SI3J

遺物図版(3)



25 K21-8 AL01  
S13J



26 K21-8 AT02  
S13J



27 K21-8 AT03  
S13J



28 K21-8 AT04  
S13J



29 AT03・04(接合)



30 K21-8 AZ01  
S13J



31 K21-8 AZ02  
S13J



32 K57-17 AA01  
遺構外



33 K57-17 AG01  
遺構外



34 K57-17 AL01  
遺構外

平成18年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

---

---

発行日	平成20年 3月 31日
編著者	国分寺市遺跡調査団 ©(団長 坂詰 秀一)
発行所	東京都国分寺市教育委員会 〒185-0023 国分寺市西元町1-13-6 Tel 042-300-0073
印刷所	㈱ 明文社

---

---

令和4年(2022)2月2日 デジタル版作成